

社会福祉法人なごみの郷

就労支援センターつばさ
グループホームなごみ
グループホーム弥生荘
ホームヘルプステーションなごみ
相談支援センターなごみ
地域活動センターくろゆり
能美地域活動センターはまかぜ
相談支援センターはまかぜ

平成29年度事業実績及び平成30年度に向けて

〒923-0851 小松市北浅井町り 123 番地
TEL (0761) 23-7232
FAX (0761) 23-7284
E-mail : shafuku@nagomi-no-sato.or.jp
<http://www.nagomi-no-sato.com>

なごみの郷の理念

なごみの郷は、「地域で普通の生活をしつつ、未来に向かって希望の道を歩むこと」を大きな目標とします。

その目標を達成するために、なごみの郷はその名の由来通り「人の輪と心が和む場」を大切にし、「一人一人が夢と希望を持って生きること」を目指して、医療・行政機関等との緊密な連携のもとに、「絶えず創意工夫を積み重ね、最善を尽くすこと」を信条とします。

基本方針

1. 人の輪、こころの和を大切にしたサービスに努めます。
2. 一人一人の権利と尊厳を守り、個人の自律及び自立を尊重することに努めます。
3. 利用者、家族、ボランティア、地域住民と一体となって推し進めます。



なごみの郷



地域活動センターくろゆり



能美地域活動センターはまかぜ

将来を見据えて

平成29年度は、社会福祉法人制度改革による新たな法律の基でスタートしました。

先ずは5月に地域貢献事業の一環として小松市苗代・蓮代寺地区の独居高齢者さんへの手作りなごみ弁当（昼食サービス）96食の無料個配を民生委員の皆様のご協力をいただき実施することができました。



また、石川県メンタルヘルスポランティア連絡協議会が引き受けた「第17回精神保健福祉ボランティア全国のつどい」の石川大会実現に向けて、小松能美メンタルヘルスポランティア友の会の皆さんを中心に平成28年春から1年半をかけて準備をして9月に地元小松（栗津温泉）に全国から多数の関係者が集い盛況のうちに開催されました。

「なごみの郷」も企画から参加し、大会当日は多くの職員も協力できたこと等、地域の精神保健福祉の向上に些少なりとも寄与できましたことを幸せに思います。

平成30年度からの第4次障害者基本計画の基本理念を「共生社会の実現に向け、障害者が、自らの決定に基づき社会のあらゆる活動に参加し、その能力を最大限発揮して自己実現できるよう支援」とする目的を掲げています。

「なごみの郷」としても、利用者・家族・ボランティア・地域住民が一体になって、「支える側」と「受ける側」に分かれることなく、安心、安全の住み慣れた地域で一人ひとりが主人公になって、自分らしく生きていくことのできる法人でありたいと願っています。

その実現に向けて、平成30年度に入り、県の社会福祉事業振興資金による「なごみの郷本館」の屋根の大規模修繕を行っており、利用者や地域が求める将来を見据えた新たな事業環境の整備と将来の法人を託していける人材確保や職員の個々の意識と資質向上を図っていく所存です。

「なごみの郷」創立20周年に向けて、地域の皆様をはじめ行政や関係機関の方々のより一層の叱咤激励とご支援をお願い申し上げます。

平成30年6月

社会福祉法人なごみの郷
理事長 荒田 稔

目 次

I 法人の概要	
1. 法人の沿革	1
2. 施設の規模	
3. 組織・機構	
4. 関係団体の動き	
5. 職員構成	
6. 平成 29 年度 特記事項	
II 支援部	
・ 就労移行支援事業、就労継続支援 B 型事業 就労支援センターつばさ	7
1. 事業の概要	
(1) 就労移行支援事業	
(2) 就労継続支援 B 型事業	
2. 事業実績	
(1) 登録者の推移	
(2) 延利用者・利用率の推移	
(3) 平均工賃の推移	
3. 行事等での年間活動	
4. 就労支援	
平成 30 年度に向けて 就労移行登録者就労率	
5. 作業の概要	
(1) 菓子製造販売部門	
(2) ダイニング部門	
(3) 委託作業	
平成 29 年度作業部門別収支内訳書	
・ 就労継続支援 B 型事業、地域活動支援事業 能美地域活動センターはまかぜ	16
1. 事業概要	
(1) 就労継続支援 B 型事業	
(2) 地域活動支援事業（能美市、小松市委託事業）	
2. 事業実績	
(1) 登録者の推移	
(2) 延利用者・利用率の推移	
(3) 平均工賃の推移	
3. 作業概要	
(1) 印刷部門	
(2) 内職部門	
(3) 施設外就労	
平成 29 年度作業部門別収支内訳書	
4. その他	
平成 29 年度の主な取り組み	
・ 共同生活援助事業 グループホームなごみ・しらさぎ	22

グループホーム弥生荘	25
・ 居宅介護事業	
ホームヘルプステーションなごみ	27
(1) 事業の概要	
(2) 事業の内容	
(3) 利用状況	
・ 相談支援事業	
相談支援センターなごみ・相談支援センターはまかぜ	29
(1) 事業の概要	
(2) 事業の実施期間	
(3) 事業内容	
・ 平成 29 年度の主な動向	
・ 行政、他機関との連携	
・ 小松市障害者自立支援協議会	
・ 能美市障害者自立支援協議会	
・ 生活介護事業、自立(生活)訓練事業、地域活動支援事業	
地域活動支援センターくろゆり	34
1. 事業の概要	
(1) 生活介護事業 (介護給付)	
(2) 自立(生活)訓練事業 (訓練等給付)	
(3) 地域活動支援事業 (小松市、能美市、加賀市委託事業)	
(4) サービス内容 (各事業共通)	
2. 事業利用状況	
3. 活動内容	
・ 地域交流推進事業	38
地域交流センター、虐待防止委員会、ボランティア	
メンタルヘルスボランティアとの交流	
III 平成 29 年度決算状況	44
1. 資金収支計算書	
2. 事業活動収支計算書	
3. 貸借対照表	
IV その他	47
1. 研修・各種団体会議等への出席	
職員虐待防止研修	
2. 関連団体への参加	
3. 平成 29 年度こまつ看護学校実習概要	
4. 地域貢献の一環	
5. 各事業所行事写真	
6. 平成 29 年度なごみの郷苦情解決第三者委員活動報告	

I 法人の概要

1 法人の沿革

平成	月	摘要
10	12	「社会福祉法人なごみの郷」設立発起人会発足
11	8	社会福祉法人なごみの郷設立 初代理事長 廣川 俊雄氏 就任
12	4	なごみの郷本館新築 精神障害者社会復帰施設「地域生活支援センターなごみ」 「福祉ホームなごみ」「通所授産施設つばさ」開設
13	3	二代目理事長 西出 外次 氏 就任
14	4	精神障害者「グループホーム弥生荘」開設
	10	ホームヘルプサービス事業開始
15	4	なごみの郷敷地内にしらさぎ館新築 精神障害者「グループホームしらさぎ」「地域交流センターしらさぎ」 小規模通所授産施設「フレンズくろゆり」開設 レスパイトケア事業・精神障害者地域生活サポート事業開始
	8	三代目理事長 木村 正行 氏 就任
18	10	「福祉ホームなごみ」より障害福祉サービス事業「ケアホームなごみ」 に事業変更・経過的地域生活支援センター事業（小松市委託）開始 「地域生活支援センターなごみ」より 相談支援事業（小松市委託）に事業変更
19	3	相談支援事業（小松市委託）廃止
	4	「地域活動支援センターくろゆり」「相談支援センターなごみ」 「ホームヘルプステーションなごみ」開設 「通所授産施設つばさ」より「就労支援センターつばさ」に事業変更
	5	「グループホームしらさぎ」より「グループホームケアホームしらさぎ」 に事業変更
20	11	「地域活動支援センターくろゆり」より「地域活動センターくろゆり」 に事業変更・「相談支援センターなごみ」増築
	12	「地域活動センターくろゆり」改築
21	8	四代目理事長 水腰 久美子 氏 就任
	10	法人設立10周年記念式典開催
22	4	「グループホームケアホームしらさぎ」より「ケアホームしらさぎ」 に事業変更
	8	五代目理事長 小杉 修 氏 就任

24	3	「能美地域活動センターはまかぜ」を就労支援センターつばさのサテライト事業所として開設
	8	六代目理事長 荒田 稔 就任
25	4	「能美地域活動センターはまかぜ」を就労継続支援（B型）事業と地域活動センターとして開業
	8	「相談支援センターはまかぜ」を能美地域活動センターはまかぜ内に開設
26	4	「ケアホームなごみ」「ケアホームしらさぎ」を「グループホームなごみ」「グループホームしらさぎ」に事業変更

2 施設の規模

① 社会福祉法人なごみの郷	〒923-0851	小松市北浅井町り 123 番地
・敷地面積		2,415.00 m ²
・建物3棟総床面積（構造・面積 木造一部2階建て）		1,017.24 m ²
グループホームなごみ	306.19 m ²	就労支援センターつばさ 348.85 m ²
相談支援センターなごみ・ホームヘルプステーションなごみ他	160.83 m ²	
グループホームしらさぎ	89.43 m ²	地域交流センターしらさぎ 104.34 m ²
ポンせん加工室	24.00 m ²	
② 地域活動センターくろゆり	〒923-0863	小松市不動島町甲 22 番地
・敷地面積（甲 21 番地 駐車場含む）		339.59 m ²
・建物床面積（構造・面積 木造2階建て）		211.89 m ²
③ グループホーム弥生荘	〒923-0943	小松市育成町 18 番地
・建物床面積（構造・面積 木造2階建て）		149.63 m ²
④ 能美地域活動センターはまかぜ	〒929-0105	能美市中ノ江町と 104-1 番地
・敷地面積		1,817.50 m ²
・建物床面積（構造・面積 鉄筋コンクリート1階建て）		389.18 m ²
		倉庫 32.17 m ²

3 組織・機構

(1) 平成30年度法人の役員等名簿（平成30年4月1日現在）

役員

理事長 荒田 稔	理事 北岡 和代	理事 石山 雄一
理事 浅井 俊子	理事 村中 豊	理事 高田 茂
監事 千田 純一	監事 三上 紀美恵	—

以上理事6名監事2名

(2) 顧問

水腰 久美子	木崎 馨山	—
--------	-------	---

以上2名

(3) 評議員選任解任委員

監事委員 三上紀美恵	外部委員 細川 勝正	外部委員 新谷千代子
外部委員 高見 京子	事務局委員 瀬戸俊文	—

以上5名

(4) 評議員

中島 捷純	岡田 啓	本多 清人	上田 肇俊
新川 葉子	南 由美子	西野 純枝	—

以上7名

(5) 苦情受付

苦情解決第三者委員	北岡 和代	田中 良弘
-----------	-------	-------

苦情解決責任者	村中 豊	苦情受付担当者	小川 久美
---------	------	---------	-------

4 関係団体の動き

年度	摘 要
昭和48年	小松保健所（現南加賀保健福祉センター）管内精神障害者家族会「くろゆり会」発足
昭和63年	小松市不動島町に小規模作業所「くろゆり作業所」開設
平成5年	ボランティアグループ「くろゆり作業所を支える会」発足
平成6年	小松保健所のメンタルヘルスボランティア講座始まる。 ボランティアグループ「メンタルフレンズつばさ会」発足 小松市末広町に第2作業所「ワークハウスつばさ」開設
平成7年	小松能美こころの街づくり推進協議会開催 ボランティアグループ「みのり会」発足
平成8年	「ワークハウスつばさ」小松市小馬出町に移転 ボランティアグループ「こだま会」発足
平成9年	「小松能美精神障害者社会復帰施設法人設立準備の会」発足
平成10年	ボランティアグループ「ハーモニー」発足
平成11年	ボランティアグループ「ののはな」発足
平成12年	小松能美メンタルヘルスボランティア連絡協議会発足
平成14年	ボランティアグループ「かよう会」発足
平成15年	ボランティアグループ「のぞみの会」発足
平成16年	メンタルヘルスボランティア8グループを統一して、「小松能美メンタルヘルスボランティア友の会」として発足

5 職員構成

常勤役員1名 職員35名 [常勤18名（男4名女14名）非常勤17名（男5名女12名）]
有資格者内訳《重複者複数》 (平成30年4月1日現在)

資格内容	人数	資格内容	人数	資格内容	人数
社会福祉施設長	1名	精神保健福祉士	11名	社会福祉士	7名
看護師	1名	介護支援専門員	3名	介護福祉士	5名
養護教諭	1名	ホームヘルパー	7名	介護職員初任者研修	4名
栄養士	1名	調理師	1名	他簿記・経理等	複数名

他 派遣労働者 シルバー人材センター (世話人・清掃)

業務委託先 NPO法人えんがわ 他 (送迎車両担当、夜間世話人)

(兼) 兼務 (非) 非常勤 (え) NPO法人えんがわ (シ) 小松市シルバー人材センター

平成 30 年度社会福祉法人なごみの郷人員配置

平成 30 年 4 月 1 日現在

理事長	荒田 稔
所 長 (施設長)	村中 豊
支援部 部長	高田 茂、小川 久美 次長 瀬戸 俊文

<p><u>就労支援センターつばさ</u></p> <p>管 理 者 小川 久美 (兼)</p> <p><就労移行事業></p> <p>サービス管理責任者 中村 有紀 (兼)</p> <p>就労支援員 金谷 葉月</p> <p>生活支援員 番 千恵子</p> <p>職業指導員 三宅奈津子 (非)</p> <p><就労継続 B 型事業></p> <p>サービス管理責任者 中村 有紀 (兼)</p> <p>生活支援員 北島 千裕 (非)</p> <p>職業指導員 鈴木 栄子</p> <p>向井 進 (非) 前田 信夫 (非)</p> <p>泉 律子 (非)</p> <p>顧 問 医 岡本 進 (非兼)</p>	<p><u>地域活動センターくろゆり</u></p> <p>管 理 者 瀬戸 俊文 (兼)</p> <p><生活介護事業></p> <p>サービス管理責任者 西東 健太 (兼)</p> <p>生活支援員 松本 里絵 (兼) 酒井真由美 (非兼)</p> <p>看 護 師 吉田裕美子 (非)</p> <p>顧 問 医 岡本 進 (非兼)</p> <p><地域活動支援センター事業></p> <p>くろゆり職員 兼務</p>
<p><u>グループホーム<共同生活援助事業></u></p> <p>ーなごみ・しらさぎー</p> <p>管理者兼サービス管理責任者 瀬戸 俊文 (兼)</p> <p>生活支援員 富樫 尚子 中山 裕子 (非)</p> <p>世 話 人 村中 豊 (非兼) 武田 春江 (非)</p> <p>大井三和子 (非)</p> <p>夜間世話人 打越 賢一 (非) 近藤 悠 (え)</p> <p>丸谷明太郎 (シ)</p> <p>ー弥生荘ー</p> <p>管理者兼サービス管理責任者 瀬戸 俊文 (兼)</p> <p>世 話 人 猿橋 弓子</p>	<p><u>能美地域活動センターはまかぜ</u></p> <p><就労継続 B 型事業></p> <p>管理者兼サービス管理責任者 高田 茂 (兼)</p> <p>生活支援員 西出 加代 (非兼)</p> <p>職業指導員 海老原 綾 (兼)</p> <p>前出 真 (兼) 吉田 早希 (兼)</p> <p>橋本庄哉 (非) 藤岡 哲哉 (非)</p> <p><地域活動支援センター事業></p> <p>はまかぜ職員兼務</p> <p><u>相談支援センターはまかぜ</u></p> <p><能美市・川北町委託障害者相談支援事業></p> <p>管 理 者 高田 茂 (兼)</p> <p>相談支援専門員 田島 崇行</p> <p>相談支援員 海老原 綾 (兼)</p>
<p><u>相談支援センターなごみ</u></p> <p><小松市委託障害者相談支援事業></p> <p>管 理 者 小川 久美 (兼)</p> <p>相談支援専門員 堂前 美春</p> <p>相談支援専門員 宇野 結貴</p>	<p><u>ホームヘルプステーションなごみ</u></p> <p><居宅介護事業></p> <p>管 理 者 小川 久美 (兼)</p> <p>サービス提供責任者 江端 安代 (兼)</p> <p>サービス提供従事者 (ホームヘルパー)</p> <p>江端 安代 (兼) 新家あかね (非)</p> <p>北道 民子 (非) 北 美由紀 (非)</p>

(兼) 兼務 (非) 非常勤 (え) NPO 法人えんがわ (シ) 小松市シルバー人材センター

平成 29 年度 特記事項

固定資産の取得

・大型修繕

12月	ポンセン加工室の改修整備	つばさ	428,760円
1月	浴室水栓取り換え工事	GHなごみ	345,600円
3月	電気錠制御システム	GHなごみ、しらさぎ	248,400円

・車両の取得

6月	軽乗用車（ワゴンR）はまかぜ増車	560,000円
11月	軽乗用車（アルト）ヘルパー車両入替（軽自動車→軽自動車）	198,000円
12月	普通貨物（プロボックスバン）はまかぜ車両入替（軽自動車→普通自動車）	1,043,300円

・備品の取得

6月	ポン菓子製造機	つばさ	250,000円
10月	エアコン（更新）	ポンセン加工室	162,000円
3月	火災報知機の設置	弥生荘	371,520円

・助成事業

平成 29 年度北國愛のほほえみ基金（社会福祉法人北國新聞厚生文化事業団）より
4つの事業所に各5万円の助成金を受けて個々に整備を行う

能美地域活動センターはまかぜ	男子トイレ手すり設置	90,000円
地域活動センターくろゆり	小型耕うん機購入	51,200円
グループホームなごみ	血圧計及びスチームモップ購入	51,396円
グループホーム弥生荘	誘導灯設備2か所設置	99,360円

以上



シャワーをリニューアル！



洗濯乾燥機もコインランドリー式に改装！

II 支援部

《就労移行支援事業、就労継続支援B型事業》

就労支援センターつばさ

1. 事業の概要

就労支援センターつばさは、就労移行支援事業（定員 6 名）と就労継続支援 B 型事業（定員 14 名）の多機能型 20 名で事業を展開した。

（1）就労移行支援事業

（サービス内容） 一般就労を希望する利用者に対し、作業を通して、知識・能力の向上を図り、ビジネスマナーを身につける訓練と働くための基礎力がつくよう支援等を実施する。

個別支援計画を作成し、その進捗状況に応じて職場体験等を組み合わせ、地域の就労支援機関等と連携を図り求職活動を行い、目標達成できるよう支援する。

（定員） 6 名

（利用料） 804 円／日（個人の所得によって上限がある）

（サービス提供日時） 毎週月～金曜日（午前 8 時 30 分～午後 5 時まで）

販売会、行事、訓練実習等により土・日・祝日有り

（利用期間） 24 ヶ月

（訓練内容） 菓子製造、喫茶、厨房、委託事業等の作業で就労に向けての疑似体験での訓練、ビジネスマナー、履歴書の書き方、面接の練習、一般就労に向けてのプログラム等の訓練

（その他） 送迎サービス、配食サービス等が利用できる

（2）就労継続支援 B 型事業

（サービス内容） 企業等への雇用に結びつかなかった人や、一定年齢に達している人に対し、通所により就労や生産活動の機会を提供する。

また、一般就労に必要な知識、能力が高まった利用者を次のステップに向けて支援する。

（定員） 14 名

（利用料） 584 円／日（個人の所得によって上限がある）

（サービス提供日時） 毎週月～金曜日（午前 8 時 30 分～午後 5 時まで）

販売会、行事等により土・日・祝日有り

（利用期間） なし

（作業内容） 菓子製造、喫茶、厨房、委託事業、エコステーション管理

（その他） 送迎サービス、配食サービス等が利用できる

2. 事業実績

(1) 登録者の推移

①人数

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
就労移行事業（定員6名）	3人	3人	5人	5人	3人	2人
就労継続（B型）（定員14名）	21人	21人	22人	21人	22人	23人

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	年度平均
2人	2人	2人	2人	1人	1人	31人	2.6人
23人	23人	23人	22人	22人	22人	265人	22.1人

②市町村登録者数

市町村名	小松市	能美市	加賀市	その他	合計
延人数	236人	35人	25人	0人	296人
構成比率	79.7%	11.8%	8.4%	0.0%	100%

③年代別登録者数（平成30年3月31日現在）

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	計
男性	0人	4人	0人	1人	6人	2人	13人
女性	0人	1人	5人	1人	2人	1人	10人
計	0人	5人	5人	2人	8人	3人	23人

(2) 延利用者・利用率の推移

①就労移行支援事業

開所月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延利用者	57人	47人	51人	44人	38人	37人
開所日数	23日	24日	26日	25日	23日	25日
稼働率	41.7%	33.3%	33.3%	30.0%	28.3%	25.0%

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
37人	37人	24人	12人	11人	18人	413人	34.4人
24日	26日	22日	21日	21日	22日	282日	23.5日
25.0%	23.3%	18.3%	10.0%	8.3%	13.3%	24.4%	

②就労継続支援（B型）事業

開所月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延利用者	303人	311人	369人	335人	334人	357人
開所日数	23日	24日	26日	25日	23日	25日
稼働率	94.3%	92.9%	101.4%	95.7%	103.6%	102.1%

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
351人	348人	358人	303人	263人	298人	3,930人	327.5人
24日	26日	22日	21日	21日	22日	282日	23.5日
104.3%	95.7%	116.4%	100.0%	89.3%	96.4%	99.5%	

(3) 平均工賃の推移

単位：円

支給月	4月	5月	6月	特別賞与	7月	8月	9月	10月
総支給額	249,665	227,056	251,896	355,800	266,114	225,250	277,890	249,640
就労移行	17,442	6,462	7,127	11,050	10,689	5,951	12,654	10,789
就労継続(B型)	10,386	10,590	10,977	18,329	11,827	10,370	12,028	10,366

11月	12月	年末賞与	1月	2月	3月	年度末賞与	年度平均	前年平均
241,899	219,850	195,900	195,712	186,937	211,714	77,300		
12,235	3,842	6,367	3,064	3,814	17,397	2,300	8,667	11,719
9,883	9,644	7,687	9,174	8,720	10,227	3,462	10,216	13,507

3. 行事等での年間活動

生活のリズムを整え気分転換を図り、合わせて交流の機会をもち社会性の幅を広げることがを目的として活動している。

開催月	活動内容	開催場所	参加人数
毎月開催	カラオケ交流(年間12回)	なごみの郷	平均9名
年3回	映画上映会	なごみの郷	平均9名
4月	花見	芦城公園	14名
	花壇の花植え	なごみの郷	9名
	明後日朝顔の種 総選挙	なごみの郷	11名
6月	小松うどんを食べに行こう	めん塾	10名
	加賀こころの病院と喫茶交流会	喫茶ウッディ	2名
	青葉会行事に参加	なごみの郷	5名
	明後日朝顔の種の苗植え	なごみの郷	10名
	明後日朝顔の種 苗植え式	小松市役所	5名
7月	防災訓練	小松市防災センター	15名
	七夕の笹飾り	なごみの郷	10名
8月	オ～もち&カラオケなんだかんだ交流会	なごみの郷	16名
	缶バッチ&入浴剤作りそしてお昼は“おにぎらず”	なごみの郷	14名
	暑い夏を楽しもう!!～そうめんとスイカと共に～	なごみの郷	10名
9月	青葉会行事に参加	なごみの郷	4名
11月	小松市障害者自立支援協議会 当事者会	小松サ・アビリティーズ	4名

12月	クリスマス会	なごみの郷	17名
	つばさ忘年会2017	なごみの郷	20名
	明後日朝顔 種包み	なごみの郷	8名
1月	お諏訪さんの初詣&新年会	なごみの郷	20名
	九谷焼へ～記憶の朝顔を描く～明後日朝顔	なごみの郷	4名
2月	青葉会 新年会 参加	辰口福社会館	7名
3月	春の日の食談会	北浅井町公民館	10名
	防災訓練 救急講習「AEDの使用方法・ 応急手当の方法・電気火災の原因、予防」	なごみの郷	18名
	明後日朝顔ワゴンを作ろう！	なごみの郷	8名
	夢や文化事業ラフターヨガ	夢や	6名

平成29年度は土日祝日の開所日を多くして282日の開所となった。登録者数について、4月は24名からスタートし年度末23名で1名の減数であったが、総延利用者数は平成28年度の3,556人から平成29年度は4,343人と737人の大幅増となった。毎日体調確認を行い、週1回の振り返りができる体制を整え、昨年以上に生活リズムを整え社会性の幅をひろげることを目的に行事・販売活動を積極的に行った。

その結果利用者間の交流とメンタル面の安定を図ることができ総延利用者数も増加した。又、総工賃支給額についても昨年度2,923,840円から3,432,623円となり508,783円の増額となった。
(文責：小川)

4. 就労支援

平成29年度は障害者職業センター、ハローワーク、障害者就業・生活支援センター、相談支援専門員、ご家族、行政・医療機関等と連携をとり計5名の就労支援を行った。内訳として、平成29年度特別支援学校卒業予定者就労アセスメント評価2名、施設内作業に従事し職業準備性を高める訓練者4名、就労継続Bへの移行2名、就労継続Aへの移行1名による退所者1名だった。就労移行支援特別プログラムは、週1回グループワーク、個別SST、事業所見学、企業見学、就労支援実践セミナー、合同面接会の同行支援を行った。

就労支援員は、南加賀就労支援強化連絡会就労支援勉強会、障害者雇用連絡会議、特別支援学校就労セミナー、就労支援に関わる研修等の参加を通して情報交換を行い知識の向上に努めた。今年度の課題であった関係機関との連携については、ハローワークや障害者職業センター、リハビリテーションセンターと繋がりを持つことが出来た。

(平成30年度に向けて)

就労支援プログラムに関して、職場体験の受け入れ企業を開拓し一般就労に向けての模擬体験の機会を設け実体験から学び具体的に支援をする。そして障害者就業・生活支援センター、ハローワーク等と連携し一般就労できるよう支援プログラムを明確化することでまず一般就労の実績をあげる。

平成 29 年度就労移行登録者就労率

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者数	3人	3人	5人	5人	3人	2人	2人	2人	2人	2人	1人	1人
就労者数 就職者+就労定着支援者	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

(文責：中村)

5. 作業の概要

(1) 菓子製造販売部門
(平成 29 年度の主な動き)

・菓子加工

平成 28 年度より小松市の障がい者就労機会拡充事業の補助金を受け新商品『トマポン』が完成した。今年度は、石川県の事業である「地域との連携による商品開発支援モデル事業」の助成を受け吉田企画、FOOD DOCTOR 北永氏、(株)スギヨの協力を得て、『海老』『海苔』に加え新商品『蟹味』のぼんせんべいを作り 3 種の『海鮮ぼん』ができた。昨年度までの課題であったいりがし機械の老朽化については、新品同様の機械を購入することができたので、今後も継続していりがし製造ができることとなった。

・出張販売、企画販売の動き

昨年に引き続き小松市の障がい者就労機会拡充事業の補助金を受けて購入した車両で市や他事業所等が主催する各種イベント、企業のイベントに参加し PR に努めた。今年度は、菓子の売り上げが激減する 6 月に「雨上がりキャラバン隊」を企画し営業販売した。その結果作業量の確保ができ安定して工賃を支給することができた。お盆、年末の時期に菓子の箱詰めセットの企画販売をした。また小松市・能美市内の保育園に雛いりがしのチラシを配布し注文を受け納品した。

<出張販売会>

開催月	販売会内容	開催場所
年 4 回	小松市役所販売会	小松市役所
4 月	メンタルヘルスボランティア友の会 総会	なごみの郷
5 月	藤見の会	小松市公会堂
6 月	なごみ祭	なごみの郷
7 月	キッズフェスタ (市民センターにて)	小松市民センター
	第 13 回小松市公民館フェスタ	小松市民センター
	コマフェス	コマニー株式会社
9 月	福祉ふれあいフェスティバル in こまつ 2017	小松ドーム
	メンタルヘルスボランティア全国大会	粟津温泉辻のや花乃庄
10 月	憩いの森 秋の祭典	小松市憩いの森
	スマイル木場潟 2017	木場潟

11月	第18回ハピネスフェアINヴィオ	ヴィオ
	北浅井町公民館祭り	北浅井町公民館にて
	レナウン・ターバンファミリーセール	石川県産業展示館
	第64回小松市社会福祉市民大会	小松市民センター

<企画販売>

6月 雨あがりキャラバン隊(いりがし注文) 1個:100円

注文者	注文数	注文者	注文数	注文者	注文数
小松市教育研究センター	46	発達支援センターえぶりい	23	南加賀保健センター	13
こまつ看護学校	27	小松市民病院	88	岡本病院	14
コマニー株式会社	732	小松市立博物館	12	合計	955

8月 なつむすめ(ギフトセット:1,500円) 13 セット

11月 ゆきむすめ(ギフトセット:1,500円) 31 セット

3月 雛いりがし注文(いりがし注文) 1個:100円

注文者	注文数	注文者	注文数
利用者、個人	73	能美市保育園(個人を含む)	407
小松市保育園(個人を含む)	330	合計	810

(平成30年度に向けて)

- ・『いりがし』『ぼんせん』を小松市「まいもん」ブランドの商品として申請し許可を得る。『ぼんせん』に関しては製造量の増加が見込まれる商品であり、その特徴を生かして地産地消の更なる商品化と販路拡大を図り売り上げ増を目指す。そして利用者の方がやりがいを持って満足して作業して頂ける作業量の提供と工賃向上に努める。
- ・働きやすい作業環境の提供と衛生環境の見直しを行い。菌体検査等も引き続き行い安心安全な商品を提供する。

(文責:小川・金谷)

(2) ダイニング部門

・喫茶

(平成29年度の主な動き)

喫茶ミーティングを月1回開催し、喫茶従事者で意見交換している。その中で「ユニフォームを新調したい」との希望があり作業意欲向上のために、他の喫茶店へ視察に行ったりして検討を重ねている。

昨年度から始めたシフォンケーキは予約制として販売をしているが、今年は販売会でも出すことができた。又メンタルヘルスボランティアの全国大会でも注文して頂き、多くの方に紹介することができた。今年度前半は、喫茶従事者が増え、2人体制で行えたが徐々に人数が減り、利用者負担感が大きくなった。また、お客様アンケートを実施しニーズを知ることが出来た。

(平成 30 年度に向けて)

- ・喫茶の作業従事者人数とお客様の利用人数が増加することが今後の課題であり作業等の見直しをすることで改善に努める。
- ・アンケートから軽食系を増やしてほしいという要望が多かったため、調理可能な軽食を提供し、また行政、関係機関、地域のイベントなどに出張コーヒーの営業を行っていくことで売り上げ増を目指す。
- ・地域交流の場として喫茶ウッディを利用して頂けるよう PR に努める。

(文責：中村・金谷)

・給食配食弁当部門

(平成 29 年度の主な動き)

通常の配食以外で、特に大口の対応としては 5 月に苗代・蓮代寺地区社会福祉協議会、苗代・蓮代寺地区民生委員・児童委員協議会のご協力を得て希望があった地域の高齢者に向けて配食弁当 96 食を法人の地域貢献事業として無料で配食をした。また 11 月には苗代・蓮代寺地区社会福祉協議会より高齢者向けの配食弁当 109 食の注文があり、春の日の食談会では副食弁当 72 食の注文があった。

月 1 回作業別ミーティング等で衛生面の強化・安全面・作業手順の確認等を行っている。10 月には南加賀保健福祉センターより講師をお招きして就労支援センターつばさの利用者及び職員を対象とした第 15 回の食品衛生講習会を行い、特に衛生面の徹底を図った。また顧客満足度向上のため昼食（給食・弁当）利用者のアンケート調査を 3 月に行った。

(平成 30 年度に向けて)

- ・今年度も地域の必要な方へ弁当を配食する。弁当注文には個別に（高齢者用等・価格は相談可）対応する。
- ・厨房の現場が作業従事者にとって安心して作業に取り組めるよう環境を整える。
- ・月 1 回作業別ミーティングを行う。
- ・8 月と 12 月に厨房内の害虫駆除と夏季の食品衛生講習会を実施する。
- ・年 1 回昼食利用者へのアンケート調査実施。結果等を食事提供に活かし顧客満足度の向上を目指す。

(文責：番)

昼食販売実績推移表

	27 年度	28 年度	29 年度
給食	1,404 食	1,917 食	1,706 食
館内(弁当)	2,772 食	3,015 食	4,392 食
くろゆり	1,796 食	1,753 食	1,262 食
はまかぜ	1,524 食	1,400 食	1,473 食
夢や	387 食	369 食	440 食
こまつ看護学校	442 食	571 食	438 食
南加賀保健福祉センター	391 食	291 食	136 食

その他(一般)	2,953 食	2,051 食	1,777 食
合 計	11,669 食	11,367 食	11,624 食

昼食平均提供数	49.7 食	47.8 食	48.8 食
---------	--------	--------	--------

(3) 委託作業

〈小松市からの委託〉

4 月 納税課より口座振替依頼書の 4 つ折を 15,000 部請負った。

5 月 ふれあい福祉課より小松市内の 240 町内会の数種類の書類、ポスター、世帯数分のパンフレットを仕分けて紐でしばる作業を請け負った。

〈企業からの委託〉

山岸紙器(株)の箱折り、(株)東栄工業からラミネート作業等を新たに請け負った。

〈古紙リサイクルステーション〉

小松市との委託契約を更新し「古紙リサイクルステーション 3 号店」の管理運営を行った。昨年度と変わらない取扱量だったが、取り扱えないリサイクル品やゴミも捨ててあり、その処分や整理整頓の為に作業回数が毎週 1 回増える結果となった。年間を通して市役所のエコロジー推進課と連携してマナー違反の対応をしたが状況を改善することが難しく、地域の方々へ周知する方法が今後の課題となった。

古紙リサイクルステーション取扱量

種 類	平成 28 年度	平成 29 年度
段ボール・牛乳パック	7,280 k g	7,610 k g
新 聞	8,120 k g	7,600 k g
雑誌・チラシ	16,560 k g	17,430 k g
合 計	31,960 k g	32,640 k g

〈アクリルタワシ〉

編み作業の従事者を常時募集し、新たに編める従事者も増えた。又くろゆりへの外注も行ったが、それでも不足した分は地域の方にボランティアで編み作業を依頼し対応した。

〈リサイクル分別〉

- ・なごみの郷館内の缶・ビン・ペットボトルを毎週火曜日と金曜日に分別を行い第 1、第 4 金曜日に「サービスセンターあしだ」へ運搬している。

(平成 30 年度に向けて)

- ・小松市より委託されている“古紙リサイクルステーション 3 号店”の運営管理を引き続き責任持つて行う。
- ・委託作業は、種類が増えたことで、各々の作業手順が複雑化しないようにマニュアル

を作成し見える化を行うことで、限られた作業スペースのなかで安心して作業に従事できるよう環境を整える。また利用者のストレングスを生かした作業が提供できるよう支援する。

(文責：金谷)

平成 29 年度作業部門別収支内訳書

単位：円

科目名	給食	喫茶	菓子	アクリル たわし他	リサイクル 分別	エコステ 清掃	その他の 委託	合計
収入の部計①	5,681,815	735,410	1,602,625	55,246		480,000	85,475	8,640,571
(28年度収入)	5,600,906	592,226	2,562,548	8,905		480,000	117,810	9,362,395
材料費								
材料仕入高	3,663,817	250,714	587,246	15,444				4,517,221
労務費								
利用者工賃	1,541,924	352,904	984,934	61,316	51,000	267,875	172,670	3,432,623
外注加工費				2,500				2,500
経費								
福利厚生費	49,896							49,896
消耗品費	185,820	18,696	65,859			3,693	1,535	275,603
水道光熱費	188,085		29,110					217,195
通信運搬費	802	850	47,623				82	49,357
修繕費								0
雑費	812		32,399					33,211
租税公課	138,788	13,879	62,454				16,192	231,313
支出の部計②	5,769,944	637,043	1,809,625	79,260	51,000	271,568	190,479	8,808,919
(28年度支出)	5,178,565	457,622	1,630,085	594,876	50,000	188,444	264,243	8,363,835
余剰金①-②	△88,129	98,367	△207,000	△24,014	△51,000	208,432	△105,004	△168,348

7. 平成 30 年度に向けて

就労支援センターつばさは、引き続き‘安心・自信・リカバリー’の質の高い支援を目指し、きめ細やかな支援を提供します。新商品の開発と販路開拓、新たな作業メニューの開発に取り組み工賃向上を目指します。また、社会福祉法人なごみの郷が地域の方々との交流の場となる役割の一翼を喫茶ウッディが担い、地域の様々な方々とつながり協働することで、地域の障がい福祉向上に貢献できるよう努めます。

(文責：小川)



ハンドドリッパー筋、来店お待ちしてます



盛付けの最中で、一番気合いが入ります

《就労継続支援B型事業、地域活動支援事業》

能美地域活動センターはまかぜ

1. 事業概要

能美地域活動センターはまかぜは、就労継続支援B型事業（定員 20 名）・地域活動支援センター事業（定員 10 名）を行う事業所として5年目を向かえた。昨年に引き続き各関係機関と連携し就労・生活等の自立に向けた支援に取り組むと共に、地域の方々に障がいを理解していただけるよう努力する。

(1) 就労継続支援B型事業

- (サービス内容) 心身面で一般就労に困難さを抱える方に、福祉サービスにおける就労・生産活動などの機会の提供と知識・能力の向上、一般就労に向けての必要な支援をする。
- (定員) 20名
- (利用料) 1日 584円（個人の所得によって上限がある）
- (サービス提供日時) 毎週月～金曜日（午前9時～午後4時まで）
- (利用期間) なし
- (作業内容) 印刷業務：名刺、年賀状、機関誌、チラシ類、封筒 他
 内職業務：梱包作業、箱作業、封詰め作業、部品仕分け 他
 自主製品：カブッキー・動物シリーズぼち袋 他
 施設外就労：清掃作業
- (その他) 昼食・送迎サービス

(2) 地域活動支援センター事業（能美市・小松市委託事業）

- (サービス内容) 心身面で日常生活に不安を抱える方に創作、余暇活動相談などを通じて、その方らしい地域生活への活動を支援する。
- (定員) 10名
- (利用料) 4時間以下 265円 4時間を超えて6時間以下 344円
 6時間を超えた場合 403円
- (サービス提供日時) 毎週月～金曜日（午前9時～午後4時まで）
- (利用期間) なし
- (内容) 生活相談、創作・余暇活動（パソコン、レク行事〔カラオケ食事会、散策など〕）、生産活動、又ほっと一息の居場所としても活用
- (その他) 昼食・送迎サービス

2. 事業実績

(1) 登録者の推移

①人数

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
就労継続支援(B型)(定員20名)	30人	31人	31人	33人	33人	35人
地域活動支援事業(定員10名)	3人	3人	3人	4人	4人	4人

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	年度平均
36人	38人	39人	40人	40人	38人	424人	35.3人
4人	4人	4人	4人	4人	4人	48人	3.8人

②市町村登録者数

市町村名	能美市	小松市	その他	合計
延人数	322人	138人	12人	472人
構成比率	68.2%	29.2%	2.6%	100%

③年代別登録者数

平成30年3月31日現在

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	計
男性	1人	5人	7人	8人	7人	4人	32人
女性	1人	0人	4人	3人	2人	0人	10人
計	2人	5人	11人	11人	9人	4人	42人

(2) 延利用者・利用率の推移

就労継続支援B型事業

開所月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	349人	353人	391人	363人	369人	396人
開所日数	21日	20日	24日	21日	23日	21日
稼働率	83.1%	88.3%	81.5%	86.4%	80.2%	94.3%

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	年度平均
461人	434人	442人	332人	279人	386人	4,555人	379.5人
24日	22日	22日	19日	19日	22日	258日	21.5日
96.0%	98.6%	100.5%	87.4%	78.4%	87.7%	88.1%	

(3) 平均工賃の推移

単位：円

支給月	4月	5月	6月	特別賞与	7月	8月	9月
総支給額	161,784	125,444	142,703	250,816	158,248	156,777	110,115
平均工賃	5,992	4,484	4,921	8,958	5,861	5,406	3,552

10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度末賞与	年度平均
206,165	252,850	237,731	148,899	118,802	181,942	48,450	
6,247	7,437	6,604	4,379	3,832	6,065	1,346	6,257

平成29年度の新規登録者は12名、登録終了者は4名（就労継続支援A型事業1名、その他3名）であった。随時見学・体験を受け入れ、各関係機関と協働し利用者のニーズに沿った利用に応えられるよう努めた。

(文責 高田)

3. 作業概要

(1) 印刷部門

(平成 29 年度の主な動き)

- ◇名 刺— 各関係機関に印刷従事者と共に営業に行っていないところにも出向き、営業を積極的に行った。その結果、能美市、小松市、小松市民病院、他関係機関の方から今年度も注文を頂いた。
- ◇年賀状— 前年度と比べて早く営業に回れるように、早めにカタログ作成に取り掛かり、営業に回ることが出来た。またイベント出店時にも営業を行うなど積極的に営業を行った。その結果これまでのお客様から注文に加え、大口のお客様のご注文も早々に頂けた。
- ◇ぼち袋— カブッキーのぼち袋は小松空港の「空の駅」や「うらら」などで販売を行った。また、動物ぼち袋は能美市や川北町から献血用の粗品としても納品させて頂いた。また、新たな柄の動物ぼち袋を作製し、バリエーションを増やすことで、イベント出店時のお客様の反応も良かった。
- ◇その他— 能美市より JDD パンフレット、福祉つながるマップ、日本赤十字社献血粗品作り、イベントチラシ、川北町より自殺予防啓発ミニチラシ、メンボラ友の会より会報や新規ご注文として全国のつどい（冊子）の印刷を頂いた。また小松市特別支援教育振興会機関紙や北浅井町公民館報、苗代・蓮台寺地区福祉たより、なごみの郷事業概要、封筒などを受注印刷した。

(平成 30 年度に向けて)

引き続きお客様の多様なニーズにこたえることが出来るよう、利用者にはパソコン操作や商品作製のスキルアップを目指していきたい。そのためにも様々な作業に従事する機会を作り、出来ることを増やし自信を持ってもらえるようにしていきたい。そして今年度も職員、利用者双方の力と知恵を合わせ、工賃アップを目指していきたい。工賃向上として、営業を積極的に行うなど地域の印刷屋として認知して頂けるよう事業所外での活動に力を注ぎ、販路拡大を目指していきたい。また、常に顔の見える対応で安心して依頼頂けるよう努めたい。

(文責 海老原)

印刷枚数

項 目	28 年度	29 年度	項 目	28 年度	29 年度
年賀状	7,936 枚	9,346 枚	会報・機関誌	5,700 枚	9,632 枚
名刺	19,507 枚	15,640 枚	北浅井町公民館報	4,230 枚	4,400 枚
ぼち袋セット	1,809 個	650 個	JDDパンフレット	2,000 枚	1,200 枚
チラシ・パンフレット類	7,920 部	8,525 部	なごみの郷事業概要	130 部	180 部
川北町自殺予防グッズ	2,200 個	2,100 個	なごみ通信	2,700 枚	2,165 枚

(2) 内職部門

(平成 29 年度の主な動き)

◇ J A 小松市

J A 小松市より委託を受け「マイルドトマトカレー」、「ヘルシートマトカレー」、「プ

レミアムトマトカレー」、「竹の子ごはんの素」の4種類のレトルトパウチ箱詰め作業を行った。職員による検品に加え、利用者による作業ごとの検品も重視することによりよい商品の提供を図った。さらに個々の得意不得意を捉えた上でなるべく得意な作業を続けることで生産能力の向上を図った。

内職納品数

商品名	納品数	
	28年度	29年度
マイルドトマトカレー	25,228 個	25,594 個
ヘルシートマトカレー	4,219 個	3,419 個
プレミアムトマトカレー	2,689 個	2,425 個
竹の子ごはんの素	13,639 個	8,674 個
納品総数	45,775 個	40,112 個

◇コマニー（株）

コマニー（株）より委託を受け「SL-ポールウワドメ」、「SL-ポールシタドメ」、「SL-MFカナグ」、「PL-ポールウワドメ」、「PL-ポールシタドメ」5種類の作業を行う。利用者にも検品をしてもらい、自分の行った品物を一緒に確認することで、よりミスのない作業を心がける意識づけを図った。

内職納品数

金具名	納品数	
	28年度	29年度
SL-ポールウワドメ	840 個	780 個
SL-ポールシタドメ	900 個	880 個
SL-MFカナグ	2,256 個	2,352 個
PL-ポールウワドメ	1,140 個	1,160 個
PL-ポールシタドメ	1,220 個	1,240 個
納品総数	6,356 個	6,412 個

◇（有）前田ケース

これまでに様々な作業に取り組んでいたため、新たに来る作業にも障りなく取り組むことができた。今年度は大量注文の作業を引き受けたことで、納期に間に合わせるために進捗管理をして作業に取り組むことが出来、利用者の作業に対する意識やモチベーションの向上につながった。また、個々の特徴に合わせて作業を割り振り、よりストレスなく作業に取り組むことで生産能力の向上を図った。

◇その他

今年度から新たに山岸紙器（株）、三和物産（株）と取引を開始し、これまでの作業に加え、箱折作業や葬儀用品の内職作業を年間通して請け負うことができ、利用者の作業意欲と工賃向上のきっかけとなった。また、新たに利用者が検品を行う作業や数

を把握しながら行う作業に取り組んだことで責任感を持って作業に取り組むことができた。

(平成 30 年度に向けて)

J A 小松市、コマニー (株)、(有) 前田ケース、(有) AD ポイント、桃宝食品 (株) などに加え、前年度から取引を開始した山岸紙器 (株)、三和物産 (株) からいただける作業に取り組み、各取引先との連携・協力を密にし、より信頼をもつていただけるよう正確な検品や早期の納品などのニーズに応えることを努力していきたい。また、利用者の生産能力向上のために、作業準備時間短縮などの作業能率を上げる環境づくりを重視するとともに、目標量と実績を見える化することで作業に対する意識・意欲の向上を図りたい。

(文責 前出)

(3) 施設外就労

(平成 29 年度の主な動き)

◇特別養護老人ホーム ボニジュール根上苑 [入浴清掃作業]

利用者の工賃と一般就労等に向けたスキルを向上させるため、施設外就労への取り組みを行った。年間を通じて作業にしっかりと利用者が入ることができた。また、より丁寧な清掃を作業時間内に終えるよう、自己点検を行い良質な清掃作業となるよう取り組んだ。

(平成 30 年度に向けて)

継続的に利用者が安定して従事し、作業の質向上と従事日数が増えていくよう今後も支援する。また施設外就労に取り組む従事者数を確保し、新たな施設外就労への取り組みもしていきたい。

平成 29 年度作業部門別収支内訳書

単位：円

科目名	その他	印刷	J A	ボニジュール	コマニー	前田ケース	その他内職	合計
収入合計①	162,293	2,878,101	380,528	180,750	150,699	361,890	158,322	4,272,583
当期材料	110,479	1,544,331	0	0	0	0	1,313	1,656,123
利用者工賃	21,166	1,150,782	379,701	177,750	127,165	294,582	120,192	2,271,338
消耗品費	0	19,290	540	0	0	0	0	19,830
外注加工費	0	35,706	0	0	0	12,256	0	47,962
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	0
租税公課	1,884	60,635	13,542	1,214	4,390	6,683	2,116	90,464
雑費	1,824	0	0	0	0	0	0	1,824
支出合計②	139,103	2,572,419	390,221	180,839	130,345	306,515	146,771	4,087,541
余剰金①-②	23,190	305,682	△9,693	△89	20,354	55,375	11,551	185,042

4. その他

(平成 29 年度の主な取り組み)

- ・地域への障害福祉の理解、啓発の一環として、「ぼくらの街フェス in 能美」や「能美市ボランティアフェスティバル」など地域活動に参加した。また「能美市こころに寄り添える人づくり委員会」企画において、障がい者理解の取り組みとして、地域の方々に対して、地域で生活する当事者の生活のしづらさなど 2 名の方に発表をいただいた。参加者には障がい理解への一助となり、また当事者の方も発表を通して地域で生活する上での大きな自信となった。
- ・市町行政、市社会福祉協議会、南加賀保健福祉センター、相談支援事業所等と連携して、一步を踏み出せない障がい者、引きこもりの方などへのニーズに応えるため、相談支援機能、地域活動支援センター機能などを活用し地域社会に繋げるための支援を行った。
- ・週 1 回勉強会として S S T、グループワークや、就労セミナーなど一般就労に向けた活動への参加を通して、利用者の社会性の幅を広げる活動を行った。
- ・年間を通して行事、余暇活動を取り入れ日々の生活の潤いや他の方々との親睦を深め仲間意識、企画力、社会性を高められるよう利用者が実行委員になり季節行事を毎月実施した。

(平成 30 年度に向けて)

基本方針

思いやりの心を第一に利用者に寄り添う専門的なサービスを提供し、利用者から選ばれる事業活動を進め、利用者の仲間づくりの場とお互いが研鑽し成長しあえる活動を行っていきます。そして能美市「我が事丸ごと」の一役を担う、障がい福祉の拠点として機能し一役を担います。

重点実施事項

- ① 利用者の工賃向上と作業の満足度を向上させるため、特性にマッチングした作業の工夫、新たな作業メニューを獲得し、多様な就労ニーズの要望に応え支援します。
- ② 行政、関係機関、相談支援事業所と連携して、一步を踏み出せない障がい者、引きこもりの方などへのニーズに応えるため、地域活動支援センターの機能などを活かし支援します。
- ③ 利用者同士の交流や家族への支援など、抱える課題など共有していけるよう、行事や交流会（当事者発表など）、勉強会などの充実を図ります。

(文責：高田)



名刺からポスターなど、様々なモノ作成します



キッチリ作ります！箱折りなら任せて

《共同生活介護事業（介護サービス包括型）》

グループホームなごみ・しらさぎ

(1) 事業の概要

(目的) 共同生活援助事業は、利用者が地域において共同して自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、当該利用者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて共同生活住居において相談、入浴、排せつ又は食事の介護その他の日常生活上の援助を適切かつ効果的に行うことを目的としている。

<グループホームなごみ>

(定員) 10名
 (家賃) 月額 28,000 円 (但し、電気水道代及び食事代は、自己負担)
 ※家賃助成制度あり

<グループホームしらさぎ>

(定員) 6名
 (家賃) 月額 23,000 円 (但し、電気水道代及び食事代は、自己負担)
 ※家賃助成制度あり

<共通>

(利用者) 区分と所得に応じて各自異なる。
 (共益費) 入浴代、洗濯代、共通利用部分電気代等 月額 3,000 円
 ※2月より、月額 2,000 円に変更
 (食事) 基本的には自炊。(必要に応じて世話人、生活支援員が支援する)
 また、希望すれば、月～金の昼食、夕食は、給食サービスが利用できる。
 (駐車場代) 月額 1,000 円 (なごみの郷駐車場利用者、自転車 2 台目から)

(2) 年代別利用者内訳

平成 30 年 3 月 31 日現在

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	計
男性	0人	0人	0人	4人	1人	4人	9人
女性	0人	0人	0人	0人	3人	1人	4人
計	0人	0人	0人	4人	4人	5人	13人

(3) 利用状況

単位：人

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
退所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—
月末利用者数	14	14	14	14	14	15	15	15	15	15	13	13

グループホームなごみ定員 10 名、しらすぎ定員 6 名。平成 29 年 4 月 1 日時点で、なごみ 10 名、しらすぎ 4 名、計 14 名。9 月に病院より 1 名入居し、2 月に他のグループホームへ 1 名、死亡 1 名で 2 名退所となり、平成 30 年 3 月 31 日現在 13 名の入居者となっている。

(4) 主な日中の生活の場（平成 30 年 3 月 31 日現在）

- ・就労継続支援事業B型 4 名 ・生活介護事業 2 名
- ・病院デイケアと就労継続支援事業B型との併用 1 名 ・一般就労 1 名
- ・病院デイケア 1 名
- ・該当なし 4 名

(5) 利用者支援等

1) 行事及び活動

①地域交流等

- ・北浅井町内会の町内一斉清掃の日に利用者皆で、なごみの郷館内の一斉清掃に参加している。
- ・年 2 回、9 月と 3 月に防災訓練を行っている。9 月は市の防災課から職員から「避難行動」の種別と説明、消防署からは消火器の使い方体験、大雨を想定した避難訓練を行った。3 月は、指定避難場所の位置確認と避難する際の注意点、救急車要請の手順と行動のふり返りを行った。

②利用者間交流

- ・世話人が定期的に特別メニューを作る夕食会（通称：大井食堂）で、8 月に鉄火丼、11 月に炊き込みご飯とピーマン肉詰めと刺身の定食、12 月に鍋企画として 3 種類の鍋を堪能し、利用者間交流を行った。
- ・平日 16：30～利用者同士の交流を図るため、「フレンズの会」を行っている。
（フレンズの会の内容）
みんなで歌を唄ったりトランプや将棋などのゲームを楽しんだり、時にはスタッフと一緒に健康をテーマに話し合うなど、利用者主体で交流を行っている。

2) ミーティング

毎月 1 回、定例でグループホーム利用者全体ミーティングを行い、行事等のお知らせや、共同生活を行う上でのルール等を皆で話し合っている。

月	種別	定例ミーティングの内容
4	定例M	スタッフの新体制の紹介。緊急携帯の整備のお知らせ。外部利用者の利用時間について。ゴールデンウィークの予定と帰省の確認。29 年度の GH について。参加者：13 人
5	定例M	居室清掃の年間計画について。北浅井町町内一斉清掃の参加呼びかけ。なごみ祭のお知らせ。GH 専用自転車の配備のお知らせ。居室の電気プラグの自己点検のお願い。洗濯機の使い方。参加者：13 人
6	定例M	今月の清掃確認場所。エアコンの外付けフィルターの推奨。食中毒の注意喚起。ゴミの分別の仕方。ゴキブリ団子の配布。参加者：14 人

7	定例M	ワックスがけについて。熱中症の注意喚起。夕食の時間の話し合い。（業者の配達時間が遅い件について）参加者：13人
8	定例M	今月の清掃確認場所。お盆期間の業務体制のお知らせ。共有部分のワックスがけのお知らせ。埋め立てゴミ当番廃止について。居室の鍵を失くした場合。熱中症の注意喚起。夜間外出の決まりについて。乾燥機の使い方。参加者：13人
9	定例M	今月の清掃確認場所。ベランダペンキ塗りの日程。憩いの間に本棚を設置。しらさぎのワックス塗りの日程。食中毒の注意喚起。憩いの間の使い方について話し合い。洗濯機・乾燥機の使い方の注意点。参加者：13人
10	定例M	今月の清掃確認場所。インフルエンザ予防接種の告知。宿直体制について。消防訓練のふり返りと意見交換。洗濯機の使い方についての話し合い。参加者：13人。
11	定例M	今月の清掃確認場所。インフルエンザの予防接種のお知らせ。脱衣場のガスヒーター準備完了。GHのきまりについて皆で読み合わせと質疑応答。家族懇談会のお知らせ。参加者：12人。
12	定例M	今月の清掃確認場所。冬期の送迎バス時刻のお知らせ。家族懇談会開催について。年末年始の業務体制。共有部分の光熱水の無駄遣いに注意。憩いの間の使い方について。薪ストーブ使用開始と注意点。参加者：12人。
1	定例M	トイレトペーパーの使い方。浴室の水栓老朽化に伴う水栓交換のお知らせ。コイン式洗濯機、乾燥機の導入の予告。共有部分の光熱水節約にご協力をお願い。憩いの間の使い方の注意点。参加者：14人
2	定例M	今月の清掃確認場所。来年4月からの宿直体制について。3月の家族懇談会について。コイン式洗濯機・乾燥機のふり返りと質疑応答。缶詰めを捨てる時の注意点。憩いの間の電気について。参加者：11人
3	定例M	今月の清掃確認場所。家族懇談会の日程について。4月からの宿直体制のお知らせ。GH玄関のオートロックの変更について。ゴミ当番用のゴミ袋置き場所について。参加者：9人

3) 個別支援

①日常生活の支援

- ・生活リズムを整えるための支援（朝の声かけ、1日の過ごし方の確認等）
- ・買物支援（生活に必要な物の購入の仕方等）
- ・金銭管理（福祉サービス利用支援事業の利用、生活費等の使い方の支援等）
- ・清掃支援（ゴミの出し方や居室の清掃、共有スペースの清掃 ※グループホームしらさぎのみ）
- ・清潔保持の為の支援（入浴・洗濯の声かけ、身だしなみの促し等）

②医療に関する支援

- ・服薬管理（服薬の確認等）
- ・受診同行

③個別面接及び相談支援

- ・個別支援計画面接
- ・日中の相談支援
- ・夜間世話人の配置を行い利用者の服薬管理及び支援や緊急時の対応

④家族支援

- ・家族からの相談対応

⑤関係機関との連携

- ・利用者に関わる機関や行政及び病院関係者と連携しながら支援を行っている。

(6) 平成 29 年度の動向

平成 28 年度に不審者の入館を防止する為、個人の指認証による開閉装置をなごみ・しらすぎ玄関に設置しオートロック化としたが、開閉に不都合があり入館に支障を来したため新たに暗証番号の開閉装置を設置した。2 月にコイン式の洗濯機・乾燥機の設置や、浴室を自閉式水栓に取り替える等、環境面の整備を行った。生活支援においては、快適な居室環境を整える為、定期的な居室清掃支援を行った。

(7) 平成 30 年度に向けて

入居者が日々健康に過ごしていけるよう、健康診断の促しや、健康についての話し合いを行っていききたい。また、皆が集える機会として一緒に食事を作る等交流の機会を作りながら、利用者の日常生活が整っていけるよう支援を行っていききたい。

(文責:瀬戸)

《共同生活援助事業 (外部サービス利用型)》

グループホーム弥生荘

(1) 事業の概要

(目 的) 外部サービス利用型共同生活援助計画に基づき、必要に応じて受託居宅介護サービス事業者による受託居宅介護サービスを適切かつ円滑に提供することにより、利用者が地域において共同して自立した日常生活又は社会生活を営む事ができるよう、当該利用者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて共同生活住居において相談、入浴、排せつ又は食事の介護その他の日常生活上の援助を適切かつ効果的に行うことを目的としている。

(定 員) 4 名

(家 賃) 月額 21,250 円 (2 階 2 部屋) 又は 26,250 円 (1 階 2 部屋)
※家賃助成制度あり (但し電気、ガス、水道代は自己負担)

(利用料) 所得に応じて各自異なる。

(共益費) 入浴代、共通利用部分電気代等 月額 1,000 円

(2) 年代別利用者内訳平成

平成 30 年 3 月 31 日現在

年齢	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代～	計
男性	0 人	0 人	0 人	2 人	0 人	2 人	4 人

(3) 利用状況

定員 4 名のところ、平成 24 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日現在、入退去の動向はなく 4 名が入居している。

(4) 主な日中の生活の場（平成 30 年 3 月 31 日現在）

- ・就労継続支援事業A型 1名
- ・就労継続支援事業B型 1名
- ・病院デイケアと就労継続支援事業B型との併用 1名 ・該当なし 1名

(5) 利用者支援等

1) 行事及び活動

- ・育成町内会の町内一斉清掃月に、利用者全員で弥生荘の館外清掃を行った。
- ・年 2 回（9 月、3 月）に防災訓練を行っている。9 月は、避難準備・高齢者等避難開始、勧告、指示の種別の違いを説明し、消防署の職員から消火器の使い方、訓練用消火器を使用して火消の訓練を行った。

2) ミーティング

毎月定例で 1 回、弥生荘の利用者でミーティングを行い、行事や地域でのお知らせや、共同生活を行う上でのルール等を皆で話し合っている。

月	種別	内 容
4 月	定例M	グループホーム専用の緊急携帯整備のお知らせ 参加者：3 人
5 月	定例M	弥生荘外回り清掃のお知らせ。弥生荘掃除当番体制が変更後の意見を話し合う。 参加者：3 人
6 月	定例M	ゴキブリ団子の配布。弥生荘消防点検のお知らせ。弥生荘外回り清掃。 参加者：3 人
7 月	定例M	熱中症、注意喚起。食中毒について注意喚起。弥生荘外回り清掃の振り返り。 利用者：3 人
8 月	定例M	熱中症について注意喚起。食中毒について注意喚起。消防訓練の告知。 利用者：3 人
9 月	定例M 行 事	消防訓練について全員参加。その後、振り返り。10 月弥生荘居室大掃除の日程確認。 利用者：3 人
10 月	定例M	浴室の清掃について。栄養管理について話し合い。11 月から始まるインフルエンザ予防接種についての説明。 利用者：3 人
11 月	定例M	各居室大掃除の振り返り。共有部分大掃除の日程確認。 利用者：3 人
12 月	定例M	年末年始のなごみの体制について。家族懇談会のお知らせ。 利用者：3 人
1 月	定例M	お正月の感想。弥生荘共益費金額変更の説明。 利用者：3 人
2 月	定例M	インフルエンザ流行注意喚起。弥生荘 1 階倉庫撤去のお知らせ。 利用者：3 人
3 月	定例会 行 事	防災訓練の告知。弥生荘親睦会の話し合い。 利用者：3 人

3) 個別支援

①日常生活の支援

- ・買物支援（生活に必要な物の購入の仕方等）
- ・金銭管理（生活費等の使い方の支援）
- ・清掃支援（ゴミの出し方や居室の清掃、共有スペースの清掃）
- ・ドアや襖の取付等の対応

②医療に関する支援

- ・受診同行

③個別面接及び相談支援

- ・個別支援計画面接
- ・電話及び訪問支援

④関係機関との連携

- ・利用者に関わる機関や行政及び病院関係者と連携しながら支援を行っている。

(6) 平成 29 年度の動向

法改正によって平成 30 年 3 月 31 日でグループホーム弥生荘から一般アパートへ移行する予定であったが入居者の事業継続の要望も強く、消防署と協議を重ねた結果、特定小規模施設用自動火災報知設備の設置をする事で、グループホームの事業継続が可能となり今後もグループホームとしてが存続することとなった。

(7) 平成 30 年度に向けて

平成 29 年度に引き続き、利用者一人ひとりの現状を把握し、日常生活を送る上で必要な力をつけていける様支援していきたい。また、入居者同士の交流の機会を増やしていきたい。

(文責：瀬戸)

《居宅介護事業》

ホームヘルプステーションなごみ

(1) 事業の概要

- (目的) 障害のある方が地域で安心して自分らしい生活を送れるように、ヘルパーが自宅へ訪問し、調理、買物、清掃、その他日常生活上の支援を行うことを目的とする。

(2) 事業の内容

- (身体介護) 調理、洗濯、掃除、入浴介助、排泄、食事介助等本人と共にそれらの行為を行う場合
- (家事援助) 家事全般をヘルパーのみで行う場合
- (営業日時) 午前 9 時～午後 6 時まで (日曜日、12/29～1/3 はお休み)
- (利用料) 30 分以上 1 時間未満 身体介護 388 円 家事援助 189 円
(自己負担金がかかる場合)

(3) 利用状況

平成 28 年度に引き続き、小松市と能美市で居宅介護サービスの提供を行った。平成 29 年 3 月末時点でのヘルパー利用登録者数は、男性 7 名、女性 11 名の計 18 名だった。平成 29 年度において、女性 1 名が 11 ヶ月の休止後 3 月に契約終了となり、女性 3 名が新規登録となり利用を開始した。平成 30 年度は男性 7 名、女性 13 名での開始となる。新規登録者は 3 名のうち 2 名が退院後の利用となっている。既に登録されている利用者が、時間の延長や利用回数の増加、サービス内容の変更などを希望されることが多かった。詳細については下欄の通りである。前年同様、調理・掃除以外に買い物、服薬確認、入浴の見守りなど支援が多様化しており、訪問看護ステーションや他事業所と連携して支援するケースが多かった。また、高齢者介護での介護区分が非該当となった利用者が、サービスの継続を希望し、利用を続けることになった。

平成 29 年度ホームヘルプサービスの利用状況

○月別登録状況

単位：人

利用月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小松市	男性	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	女性	10	10	10	10	11	11	12	12	13	13	13	13
	計	17	17	17	17	18	18	19	19	20	20	20	20
能美市	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
市町合計		18	18	18	18	19	19	20	20	21	21	21	21
(内休止)		0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

○男女・年代別利用者数

平成 30 年 3 月 31 日現在

年齢	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男性	0人	0人	3人	1人	3人	0人	7人
女性	0人	4人	4人	3人	2人	1人	14人
合計	0人	4人	7人	4人	5人	1人	21人

○男女別・利用内容（重複利用あり）

※平成30年3月1ヶ月分の利用内容です。

サービス 内 容	掃除 片付け	調理	買物 同行	買物 依頼	入浴 介助	洗濯	通院 介助	合計
男性	7人	2人	1人	0人	0人	2人	0人	12人
女性	13人	11人	3人	2人	2人	2人	1人	34人
合計	20人	13人	4人	2人	2人	4人	1人	46人

（平成30年度に向けて）

地域関係機関、相談支援事業所と連携し、地域で暮らす利用者の生活の助けになる居宅介護事業所を目指し、昨年度に引き続き、支援体制の検討やヘルパー職員のスキルアップ等障がい特性に対応できる支援技術の向上を図っていきたい。

（文責 江端）

《相談支援事業》

相談支援センターなごみ・相談支援センターはまかぜ

（1）事業の概要

目的) 障害者を持たれた方やそのご家族の福祉や生活全般に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言その他の障害福祉サービスの利用支援等、必要な支援を関係機関との連携を取りながら行うとともに、虐待の防止及びその早期発見、その他の障害者等の権利擁護のために必要な援助を行う。

利用料) 無料。

利用時間) 月曜日～金曜日（土・日・祝日、12/29～1/3はお休み）9:00～17:30

（2）事業の実施期間 平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

（3）事業内容

- ・基本相談（小松市、能美市、川北町より委託）
福祉サービスに繋がっていない障害のある方、その家族への相談業務と必要な支援を行う。
- ・特定相談支援
福祉サービス利用者に対し、サービス利用計画の作成を行い、サービス調整や必要に応じて支援を行う。
- ・一般相談支援事業（地域移行・地域定着）
精神科病院からの退院支援、施設入所施設からの対処支援、その後の地域生活が定着するよう支援を行う。
- ・障害児相談支援事業
サービス利用計画書の作成を行い、サービス調整や必要に応じて支援を行う

相談支援センターなごみ

■ 障害者相談支援事業

<利用者数>

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談実人数	59	63	65	68	66	67	70	69	69	64	58	68	786
相談件数	241	224	230	246	218	230	237	210	194	172	169	215	2,586
計画相談件数	35	33	27	32	40	31	35	30	28	35	32	29	387

<年間支援方法>

訪問	来所相談	同行	電話相談	個別支援 会議	関係 機関	その他	合計
345件	147件	145件	860件	193件	762件	134件	2,586件

<サービス等計画作成対象者>

平成30年3月31日現在

年齢	～10代	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	合計
男性	0人	6人	4人	9人	13人	11人	20人	63人
女性	3人	0人	10人	7人	11人	8人	10人	49人
計	3人	6人	14人	16人	24人	19人	30人	112人

■ 障害程度区分認定調査（小松市委託事業）

小松市障害程度区分認定調査数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3件	3件	2件	2件	5件	3件	2件	4件	4件	2件	4件	2件	36件

（平成29年度の主な動き）

特定相談支援の相談者数は、介護保険への移行、一般就労された方など個々の理由で減少しているが、今年度は新規ケースの依頼が多く相談者数は増加傾向にあった。障害種別で記載の中には、知的と精神、発達と精神など重複されている方が含まれている。そして今年度はベースに発達障害があり、二次障害として精神疾患を抱える利用者の就労支援や生活支援の相談も多かった。支援内容は、本人家族からの不安解消などの電話対応、医療機関との連携や相談、健康や医療に関する相談。医療面では、精神科以外の他科受診や連携など行った。

ケースとして、児童の新規ケースが昨年度より増え、従来から支援している児童の進学や進級などに伴い、教育センター、学校、こども発達支援センター、児童系事業所などとの連携が多い1年だった。また精神障害で50代男性の就労支援の依頼も多く、背景には経済的な問題もあり、支援に苦慮するケースも多かった。相談支援体制については、地域生活支援拠点整備などがプランとしてあげられる中、石川県自立支援協議会ネットワーク会

議や市の福祉課の方とも話し合いを行ってきた。サービス等利用計画がスタートし、数年がたち相談依頼も増える中、求められる支援がタイムリーには行えず、昨今より課題となっている相談体制の検討を引き続き行って行く必要がある。

<行政、他機関との連携>

相談支援専門員としての動きやケースを通しての共通理解などを深め、行政や病院、学校、他の事業所との連携を強化し、チームとして活動していけるようケース報告やケース検討を行った。また、相談支援の在り方や今後の相談支援の体制などについての話し合いを行った。

- ・毎週金曜日 ふれあい福祉課と合同でケース報告、新規ケースの依頼、情報交換
- ・小松市相談支援事業所連絡会 毎月第3火曜日
- ・南加賀相談支援事業所連絡会 奇数月の第4水曜日
- ・その他ケースにあわせたケア会議の出席や情報共有
- ・高齢者総合相談支援センターとの合同勉強会
- ・小松特別支援学校進路連絡会
- ・地域療養支援事業への参加
- ・生活困窮者サポートネットワーク会議出席（年2回）

<障害者自立支援協議会>

障害者プラン策定年ということもあり、運営委員会を臨時で開催し、意見交換などを行い、各委員会では年度目標をたてながら課題整理や年度計画達成に向けた活動を行った。

- ・全体会 年1回 5月に開催
- ・運営委員会 今年度は障害者プラン策定年ということもあり、必要に応じた開催となった。（当事者の声を聴くための仕組み作りを考える会リーダーとして出席）
- ・各ワーキング 毎月1回開催（相談支援センターなごみとして下記のワーキングチームに参加）

地域移行支援・地域定着支援の推進にかかる支援者連携について地域に即したあり方の検討・当事者の声を聴くための仕組み作りを考える会・研修企画と実施

- ・福祉つながりネットワーク出席 年2回
- ・石川県自立支援協議会ネットワーク会議出席 年2回
- ・虐待防止委員会 年2回会議に出席

（平成30年度に向けて）

障害者を持たれた方やそのご家族の、福祉や生活全般に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言その他の障害福祉サービスの利用支援など、関係機関や地域との連携を取りながら、その方が地域でよりよい生活が送れるよう必要な支援を行います。

・重点実施事項

- ① 地域生活支援拠点づくりについて、行政、関係機関との連携を行い、包括的な相談支援体制について協議します。
- ② 自立支援協議会への積極的な参加により、地域課題整理や資源開発に向けた活動を行います。
- ③ 各種研修会や事例検討会などの参加、また個々のケースを通じた連携などにより、専門職としてのスキルアップをはかります。

（文責：堂前）

相談支援センターはまかぜ

■ 障害者相談支援事業

<利用者数>

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談実人数	41	45	39	36	33	32	35	38	41	36	30	39	445
相談件数	153	137	143	107	107	56	86	107	99	83	78	91	1,247
計画相談件数	15	16	16	16	16	19	14	15	13	8	12	19	178

<年間支援方法>

訪問	来所相談	同行	電話相談	個別支援 会議	関係 機関	その他	合計
335件	70件	67件	435件	192件	148件	0件	1,247件

<サービス等計画作成対象者>

平成30年3月31日現在

年齢	～10代	20代	30代	40代	50代	60代～	合計
男性	4人	8人	14人	10人	11人	6人	53人
女性	0人	1人	3人	4人	3人	3人	14人
計	4人	9人	17人	14人	14人	9人	67人

■ 障害程度区分認定調査（能美市委託事業）

能美市障害支援区分認定調査数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4件	5件	2件	2件	4件	2件	2件	2件	2件	5件	1件	1件	32件

（平成29年度の主な動き）

昨年と同様に、ご家族の高齢化等様々な事情により介護保険との繋がりの中で、ご本人、ご家族（一家）全体を見守り、調整していくかたちが増えている。また地域機関では、昨年10月に寺井地区にあんしん相談センターが設置され、障がい者、高齢者などの総合相談窓口として、包括的な仕組みが広がりを見せている。

また、10代後半から20代前半の対人不安（社会不安）を持つ方々への対応も増え、疾病や障害という側面だけではなく、現代社会で生きていく事のしんどさを、関わりを通して感じる面もあり、様々な関係機関（インフォーマルも含む）と協力し支援を始める工夫もしてきた。

<行政、他機関との連携>

ケースを通しての共通理解を深め、行政や他の事業所との繋がりを大切にし、それぞれの専門性や特徴を活かしながら活動していけるようにケース報告やケース検討を行う。

また、相談支援の在り方や今後の相談支援の体制などについて話し合いを行った。

- ・能美市相談支援事業所連絡会 毎月第2火曜日

<障害者自立支援協議会>

相談支援事業の委託先が能美市内で3事業所体制となって以来、それぞれの特性を活かしつつ、自立支援協議会も年々新たな取り組みが見られる。各連絡会ともに活発な議論が行われ、様々な地域課題が徐々に浮き彫りになっている。

定例支援会議では、今年度は第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画策定の件、手話言語・障がい者等コミュニケーション促進検討委員会中間報告等の意見交換が行われた。

事業所連絡会では、「のみ福祉つながるマップ」に関しては9月の定例支援会議、11月の能美市地域自立支援協議会で最終確認を受け承認され、現在発行となっている。今年度の通所系事業所は、一般企業等への障害者の理解・啓発を目標に、能美市商工会との交流を図る為の準備を行っていた。

また、今年度は2月に「障がいのある人や家族の思いを語り合う会」を実施し、当事者6名、ご家族6名の参加があった。次年度以降も継続して、思いを語り合う会を開催する予定でいる。

- ・能美市地域自立支援協議会 年2回
- ・事業所連絡会 毎月1回
- ・運営会議 毎月1回
- ・子ども連絡会 毎月1回
- ・定例支援会議 年3回

(平成30年度に向けて)

南加賀圏域の各市の行政、各市の社会福祉協議会(地域を含む)、各市内の医療機関、各福祉サービス事業所などと連携をとり、合わせて高齢化や親亡き後を見据えた柔軟で切れ目のないサポート体制を協働しながら構築していくことで、南加賀圏域の社会福祉の向上を目指す。

- ① 地域関係団体の各協議会、研修会などへの参加を通して、困難ケースや多様な連携の必要性の中で、専門職としてのスキルアップと地域との連携を深める。
- ② 自立支援協議会で話し合われた、地域課題やニーズ、個々のケース課題を、サービス提供事業所などにフィードバックし、地域社会資源の開発、人材育成に役立てることが出来るよう共有していく。
- ③ 地域の相談支援のニーズが増し、一層相談機能が重要視される中、地域包括相談支援の動向を踏まえ行政、関係者などと課題を共有し、資源の工夫・確保の体制を整えていく。

(文責：田島)

《生活介護事業、自立(生活)訓練事業、地域活動支援事業》

地域活動センターくろゆり

1. 事業の概要

(1) 生活介護事業 (介護給付)

(目的) 日常生活をより豊かにするため、創作活動、余暇活動、生産活動の機会を提供し、必要に応じて、食事や入浴、服薬、排泄等の介助等支援を提供する。それぞれの希望をもとに個別支援計画を作成し、創意工夫をし、個別に支援を提供することを目的とする。

(定員) 12名

(利用料) 1日 (区分2) 547円 (区分3) 598円
(区分4) 668円 (区分5) 947円
(区分6) 1,266円

(利用期間) なし

(利用区分) 区分3以上、50歳以上の方については区分2以上

(2) 自立(生活)訓練事業 (訓練等給付)

(目的) 自立(律)した日常生活や社会生活が営めるよう、それぞれの方に合わせた期間で目標を立て、本人の望む生活が出来るように支援を提供する。それぞれの希望をもとに個別支援計画を作成し、創意工夫をし、個別に支援を提供することを目的とする。

(定員) 8名

(利用料) 1日 751円

(利用期間) 原則として2年間

(利用区分) なし

(3) 地域活動支援事業 (小松市、能美市、加賀市委託事業)

(目的) 創作活動、余暇活動、生産活動などを通じ、各個人がそれぞれの生活を豊かにし、生きがいや夢を持って生活できるように創意工夫し支援を提供すること。また、「気軽に立ち寄れる場所」としての機能を重視することを目的としている。

(定員) 若干名

(利用料) 4時間以下 265円 4時間を超えて6時間以下 344円
6時間を超えた場合 403円

(利用期間) なし

(利用区分) なし

(4) サービス内容 (各事業共通)

創作活動 畑での野菜、五七五(俳句)、パソコン利用等

余暇利用 調理、買い物、カラオケ、体育館利用、散歩等

生産活動　ねじの袋詰め、箱折などの内職作業 等
 季節行事　初詣、花見、忘年会、年度末会 等
 各種相談　金銭相談、制度相談、生活相談、医療相談・同行 等
 その他　送迎サービス 昼食注文サービス、入浴・洗濯サービス(実費) 等
 個別支援計画に基づき、必要に応じ様々なサービスを提供している。

2. 事業利用状況

(1) 登録者の状況

①月別、事業利用別登録者数の動向

単位:人

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
生活介護	11	11	12	12	12	12	13	13	12	12	11	11	11.8
自立(生活)訓練	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0.5
地域活動	6	6	6	6	7	7	8	8	10	10	10	10	7.8
合計	18	18	19	19	20	20	21	21	22	22	21	21	20.1

②市町村別事業利用別登録者数

平成30年3月31日現在

項目	小松市	能美市	加賀市	合計
生活介護	9人	2人	0人	11人
自立(生活)訓練	0人	0人	0人	0人
地域活動	6人	2人	2人	10人
合計	15人	4人	2人	21人

③年代別登録者数

平成30年3月31日現在

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	0人	1人	1人	3人	2人	6人	13人
女性	0人	0人	3人	1人	2人	2人	8人
合計	0人	1人	4人	4人	4人	8人	21人

平成29年度は新規利用者獲得の為、関係機関に向けチラシの配布、訪問、電話での連絡等情報を発信した事もあり、問い合わせの数20件(昨年度8件)と増え、その内4名(昨年度1名)が新規登録者となった。事業変更者3名で内訳は、生活介護から地域活動支援1名、自立訓練から地域活動支援1名、地域活動支援から生活介護1名。体調不良から登録終了者1名であった。今年度は登録者及び見学者動向として生活介護事業や自立訓練事業の希望者は殆ど無く、地域生活支援事業での利用希望者が多い一年であった。

(2) 利用人数の状況

単位:人

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活介護	120	110	144	130	134	120	129	139	134	112	99	139	1,510
自立訓練	10	13	12	12	14	12	0	0	0	0	0	0	73
地域活動支援	29	27	20	18	25	29	37	36	26	26	25	35	333
利用者数月計	159	150	176	160	173	161	166	175	160	138	124	174	1,916
一日の平均利用者数	8.0	7.5	7.7	8.0	7.9	8.1	9.8	8.8	7.6	7.3	6.5	8.3	7.9

1日平均7.9人の利用となり昨年度と比較すると1.3人の減となった。稼働率は、生活介護事業50.3%、生活訓練事業3.6%、地域活動支援事業13.8%となっている。

3. 活動内容

くろゆり利用者やご家族に対し個別の面談・家族懇談会等を行う中で、これまで以上に一人一人の目標にあった利用が出来るように話し合いを行い活動等に反映する支援を行った。それにより一部利用者の利用回数が増えましたが、事業所全体の利用人数の増加には繋がらなかった。

「くろゆり」が社会や地域との繋がりとなる様、メンタルヘルスボランティア友の会による「学ぼうさ」の活動を昨年同様、定期的に行い、又今年度は地域のボランティアの方を講師として招き「五七五」の俳句作りを定期的に行った。完成した作品は、石川県障害者ふれあいフェスティバルに応募し、石川県知事より「佳作」の賞状を頂く事ができた。目標としていた「くろゆり」発信の活動にボランティアを招き一緒に活動に取り組む事が出来た一年となった。

平成29年度人気活動ベストⅢ

ランク	活動内容	人数
1位	小旅行(ハスネテラス)	11人
	くろゆりクリスマス会・忘年会	11人
2位	温泉・BBQ下見(せせらぎの郷)	10人
	餅パーティー	10人
3位	花見(兼六園)	9人
	防災訓練(能美市防災センター)	9人
	恵方巻き(調理教室)	9人
	くろゆり年度末会	9人

(平成 29 年度の主な動き)

平成 28 年度から開始した中期 3 カ年計画に基づき

- ① 事業所の安定運営を目指し、「新規利用者の獲得の為、関係機関に対しくろゆりの情報を発信する事」
- ② 登録者に対し、これまで以上に過ごしやすい場所になる為、「健康で笑顔のある生活が送れるよう体調の安定や生活リズムを整える事」
- ③ 地域交流・地域貢献となるくろゆりを目指し、「メンタルヘルスボランティア友の会・利用者家族等、社会や地域との繋がりを感じる事の出来る場を作る事」

以上の 3 つの取り組みを行った。

(平成 30 年度に向けて)

くろゆり利用者の状況や、平成 29 年度の事業の希望者の問合せ状況を踏まえ、自立訓練事業を休止とし、生活介護事業と地域生活支援事業を行いながら、障害のある方の思いや希望に合わせた新たな事業展開を図っていく。

(文責：西東)



地域のゴミ収集に協力 綺麗になり、つい笑顔が



俳句を詠んで表彰されました！みんなで記念撮影

《地域交流推進事業》

(1) 地域交流センター及び地域交流室の活用

青葉会、くろゆり会、小松能美メンタルヘルスボランティア友の会の活動の拠点として各種行事や会議等で利用されております。その他、地域の福祉医療関係者もピア活動の場として使用する等、多目的に利用されている。

平成 29 年度地域交流センター及び地域交流室利用の推移

団体名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
青葉会	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
	0	0	1	0	0	0	0	0	7	0	0	1	9
くろゆり会	1	1	0	0	0	2	1	1	1	0	1	0	8
	10	2	0	0	0	16	6	6	5	0	1	0	46
メンボラ友の会	11	7	2	10	6	5	2	1	5	2	3	10	64
	128	48	25	63	51	26	10	7	54	13	14	63	502
その他	1	1	1	1	1	5	3	4	2	3	2	10	34
	41	4	13	3	7	34	20	28	19	16	12	101	298
計	13	10	3	11	7	12	6	6	9	5	6	21	109
	179	55	38	66	58	76	36	41	85	29	27	165	855

上段回数：行事及び会議の回数

下段：行事及び会議の参加者数

■その他の地域福祉関係者の活動内容

1) SUGAR JAPAN は、2ヶ月に2回集まり、ピアカウンセリングを行うグループです。生活のことや仕事のこと、病気、薬、老後のことなど幅広くみんなで話し合っています。メンバーには、当事者の方を中心に、大学教員、福祉施設の職員、病院のナースに作業療法士、ボランティアの方と幅広く参加しています。その日のテーマは、集まった時に決め、時には討論になったりと濃い時間を過ごしています。平成29年9月には、メンタルヘルスボランティアの全国大会の分科会で精神障害を持っているの生活のしづらさや病気についてなどをいつもの活動を実際にその場で行いました。ボランティアの方々からは、当事者本人から話を聞いて良かった。とても参考になったと意見があり、今後活発な活動を続けていきたい。

2) 「虐待防止委員会」取り組みに関すること

なごみの郷職員として権利擁護等の意識を高め、虐待防止につなげていくことを目的に、年3回委員会を開催し取り組みを行った。今年度は、全職員対象に自己点検チェックリストを行い、現状の把握と虐待防止に向けた早期発見と迅速な対応を実現するアンケート調査を実施した。またアンケート結果を踏まえ平成30年3月には、虐待防止研修を実施し、虐待を起こさない職員としての責務や虐待を起こさないためにどのような取り組みが必要かを学び、具体策などについてグループワークで意見交換を行い意識を高めた。

3) ボランティアに関すること

平成 29 年度も小松能美メンタルヘルスボランティア友の会の役員会（1 回/2 ヶ月）への出席や利用者との交流行事であるバスハイク、お茶会、春の日の食談会等へ参加し利用者ボランティアの交流に努めた。又、毎月行う友の会主催のいくつかの「学びの会」等は、利用者の「学びたい」ニーズに寄り添った企画として続いております。

— 以下、平成 29 年度メンボラ友の会事業報告書からの抜粋 —

メンタルヘルスボランティアとの交流行事

月	日	曜	内 容	参加者
6	3	土	<ul style="list-style-type: none"> ・第18回なごみ祭 ☆野菜切花コーナー お客さんが買われた花や野菜に名前を書いて預かり喜ばれた。また毎年、大変なのに立派な菖蒲を持参くださる会員さんがいて人気商品です。切り花も彩が良く、安くて人気商品でした。 ☆お抹茶コーナー お客さんにお茶が美味しいと評判が良かった。ボランティアスタッフの学生さんはめったにない体験を楽しんで、よく頑張ってくれた。お茶券も早く売れて余裕でした。 	友の会34名
6	19	月	<ul style="list-style-type: none"> ・おはぎの会 会員からの寄付の餅米 2 升で 1 6 5 個のおはぎを作った。早くから準備をして、3 グループに分かれて、きな粉・あおさ・粒あんのおはぎを作った。みんなの協力で楽しく美味しく出来たあがったおはぎを一人 3 個ずつ容器に入れたり、お茶を飲んで交流したり良い体験となりました。 「父の日プレゼントにする」との参加者の声もありました。 	利用者17名 友の会14名 職員 5名 計36名
10	16	月	<ul style="list-style-type: none"> ・みそ開き 2 月に仕込んだ味噌を参加者に分けた。又、出来立ての味噌を使って、さつまいも・豆腐・小豆の入った「小豆汁」を作り味わった。来年は機の配置を考えて、みんなの顔が見えるようにして小豆汁を味わいたいとの事でした。 	利用者15名 友の会12名 職員 4名 計31名
11	7	火	<ul style="list-style-type: none"> ・バスハイク《尾小屋鉦山資料館・埋蔵文化センター見学》 尾小屋鉦山資料館では説明をしっかりとされた。坑内は寒かったが怪我なく行けて良かった。埋蔵文化センターでの組紐体験は少し難しく感じたが、職員が手伝っていた。一番楽しみな昼食は、一般客もおいでたので食べるまでにとっても時間がかかった。天気がよくバスの中で綺麗な紅葉を見ながら歌を楽しみ、お昼が想いと違っていたので急きよ「きの子の里」に寄り買物やソフトクリームを食べたりと、最後はみんなの笑顔を見てほっとした。 	利用者20名 友の会18名 職員 6名 計44名

1	15	月	<p>・初釜</p> <p>初釜も利用者に喜んでいただける行事です。職員のお蔭で綺麗に掃除された2階和室に、早めに集まり茶器セット等を用意して皆で会場の準備をした。お軸もお花も会員のお世話になりお客さんを迎えた。8人花びら餅、お抹茶を頂きなごやかにゆっくりと楽しんでいただいた。2階に上がれない方には、今回初めて1回で飲んでいただき喜ばれた。</p>	<p>利用者14名 友の会14名 職員 13名 計41名</p>
2	19	月	<p>・みそ作り</p> <p>大雪の為例年より参加者が減った。会員5人が個々に大豆1kgを自宅で炊いて持ち寄った。手順の説明後2班に分かれ、大豆をミンサーにかけてから、塩や麴をたらいで混ぜた後お団子に丸めて2つの容器に詰め込む為の容器への投げ入れはストレス発散になるようです。後は利用者とお茶とお菓子で交流した。</p>	<p>利用者 7名 友の会12名 職員 2名 計21名</p>
3	5	土	<p>・第19回春の食談会</p> <p>昨年と同じく、北浅井会館で平日に行った。前日に実行委員で準備がしてあり助かった。豚汁は材料を各会員が手分けして準備し持ち寄り、手慣れた感じで煮込んで行った。出すタイミングにも気を配りおかわりも出来たので来年は肉を増やそうかとの意見もあった。毎年漬物をくださる会員もいてうれしい事です。今回は二人羽織がとっても上手で笑いをよび、その後の歌とビンゴで盛り上がり、炭鉾節で皆の気持ちが一つになった。ビンゴの景品が紙袋に取り易く入っていた。</p>	<p>利用者23名 家族会 5名 友の会25名 職員 19名 計72名</p>



みんなでせっせとおはぎ作り！



みそ作りの後の歓談



学びの会（絵手紙）

月	日	曜	内 容	利用者	友の会
4	24	水	絵手紙（ライラック）	3	1
5	30	水	絵手紙（デルフィニウム、ゼラニウム）	2	1
6	26	水	絵手紙（百合、あじさい、テッセン）	6 見学1	3
7	24	水	絵手紙（鬼ゆり、匂い番まつり、緋扇、キュウリ）	11	4
8	28	水	絵手紙（グラジオラス、白ゆり、千日紅）	4 見学1	2
10	23	水	絵手紙（ざくろ、ダイヤモンドリリー）	2	1
11	27	水	絵手紙（猿取りイバラ「山帰来」）	2	1
12	18	月	干支の型抜きアート	13	5
1	22	水	絵手紙（鬼の置物、ストック）	5	2
2	26	水	絵手紙（おもちゃのカエル、苺）	1	2
3	26	水	絵手紙（八重つばき「緞帳」）	2	2

学ぼうさ（くろゆり学ぼうさ）

月	日	曜	内 容	利用者	友の会
4	13	木	「勉強のコツをよんで」	2	1
	27	木	なぞなぞ	4	2
5	18	木	算数プリント答え合わせ	2	2
6	8	木	算数（三角、四角、他）	3	1
	29	木	150マス計算、奇数、偶数、魔法陣	2 学生1	1
7	6	木	魔法陣の作り方	2	1
	20	木	算数（三角、四角）	3	1
8	3	木	算数（三角、四角、箱の形、割り算）	3	1
9	7	木	漫画ブツダ等、輪読	3	1
10	12	木	国語「生かされる命」	2	1
	26	木	新聞記事を読んで	3	1
11	9	木	算数（角度、垂直、平行）	2	1
	30	木	算数（三角形の内角の和）	3	1
1	11	木	150マス計算	1	1
3	8	木	計算問題	2	1

ほっとサロン

月	日	曜	内 容	利用者	友の会
4	22	土	・イオンモール小松の話（行った人、行ってない人） ・バスハイクの行先は？・お別れの言葉の練習 ・合唱（1年生になったら）	8	3
5	20	土	・なごみの郷を出て7年の北村さん仕事が休みで久しぶりに参加（タバコが止められない、なごみ祭はお金がないので不参加） ・体調の話	6	3
6	17	土	・今年のバスハイクはどこに行くのかな ・40歳代になり、体調に気をつけるようになった ・イオンで映画を観てきた・頭の体操を皆でした	5	4
7	15	土	・不平や理屈は愛の言葉で挽回できる。なごみの郷は愛を感じる所です。スマホと形態の話・背が高いと得する時と困るとき	2	4
8	19	土	・お盆をどう過ごしたか・病院の診察が第3土曜日なので午前中に行き、午後ほっとサロンに来ている。・Nさんの実家が空き家になっているので心配なこと・なごみの郷が出来るまでの話をメンボラ友の会会長に聞く	8	4
10	21	土	・利用者の生い立ちを聞く・今年のバスハイクについて ・職場ではあまりしゃべらないようにしている 等	1	3
11	18	土	・仕事を始めて7年になる・冬用タイヤの交換を父に教えてもらった・倒れて救急車で運ばれたこと	2	3
12	16	土	・はまかぜの印刷の仕事は年賀状で忙しい ・食事作りは一人で色々考えて作っている ・事最後のサロンで果物やお菓子を食べました	8	5
1	20	土	・自炊している利用者の献立・年賀状の印刷の仕事が忙しい ・風邪をひき医院に通院している ・みんなで合唱（クリスマスの歌、故郷）など	8	5
2	17	土	・食談会について今年は80人位参加 ・バレンタインデーにチョコレートをもらった ・オリンピックを見る・最後に歌を唄う（北国の春、与作）	6	3
3	17	土	大雪の話・タイヤ交換したか？・車がはまった時、手を貸してくれて親切な人が居ると実感した・食談会二人羽織が楽しかった ・パラリンピック緑夢くんの金メダル 等	8	4



第18回 なごみ祭り

平成29年6月3日（土曜日）

朝から少し陽のさす6月上旬に、第18回“なごみ祭”が開催されました。小松消防署の本格的で迫力のある音楽隊の演奏を始め、おなじみの“マジカルコーちゃん”のショーで温かい笑いを誘ったり、利用者によるグレードUPしたショートタイムや様々な模擬店とアート作品の展示で盛りだくさんな“なごみ祭り”となりました。



すばらしい演奏で魅了 小松消防署の音楽隊



自慢のいりがしやポチ袋です。買ってね～



“これでイイの団” はレベル上げてきました



“EG 団” は歌にチカラを入れてきた！？

第19回 春の日の食談会

平成30年3月3日（金曜日）

荒田理事長のあいさつ。青葉会副代表の乾杯で食談会の幕はあがりました！昨年同様平日に開催し多くの利用者が参加できるようにしました。広い会場でお昼を食べて、唄って、踊って笑いが絶えない楽しい時間を過ごすことができました。



さあ、みんなで輪踊り



健腕体操で元気になろう



メンバーの方々による出しモノ

Ⅲ 平成29年度の決算状況 《 資金収支計算書、事業活動計算書、貸借対照表》

第一号第一様式 (第七条関係)

法人単位資金収支計算書

(自) 平成29年 4月 1日 (至) 平成30年 3月31日

社会福祉法人 なごみの郷

(単位: 円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入				
	就労支援事業収入	14,000,000	12,913,154	1,086,846	
	障害福祉サービス等事業収入	136,123,000	137,860,563	△ 1,737,563	
	その他の事業収入				
	借入金利息補助金収入				
	経常経費寄附金収入	350,000	332,110	17,890	
	受取利息配当金収入	10,000	688	9,312	
	その他の収入	548,000	552,985	△ 4,985	
	流動資産評価益等による資金増加額				
	事業活動収入計(1)	151,031,000	151,659,500	△ 628,500	
	支出				
	人件費支出	99,712,000	94,768,425	4,943,575	
	事業費支出	10,564,000	9,643,763	920,237	
	事務費支出	17,480,000	15,177,546	2,302,454	
	就労支援事業支出	14,000,000	12,926,376	1,073,624	
利用者負担軽減額					
支払利息支出	106,000	104,142	1,858		
その他の支出					
流動資産評価損等による資金減少額					
事業活動支出計(2)	141,862,000	132,620,252	9,241,748		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	9,169,000	19,039,248	△ 9,870,248		
施設整備等による収支	収入				
	施設整備等補助金収入				
	施設整備等寄附金収入				
	設備資金借入金収入				
	固定資産売却収入				
	その他の施設整備等による収入	50,000	102,000	△ 52,000	
	施設整備等収入計(4)	50,000	102,000	△ 52,000	
	支出				
	設備資金借入金元金償還支出	2,400,000	2,400,000	0	
	固定資産取得支出	3,830,000	3,531,980	298,020	
固定資産除却・廃棄支出					
ファイナンス・リース債務の返済支出					
その他の施設整備等による支出					
施設整備等支出計(5)	6,230,000	5,931,980	298,020		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 6,180,000	△ 5,829,980	△ 350,020		
その他の活動による収支	収入				
	長期運営資金借入金元金償還寄附金収入				
	長期運営資金借入金収入				
	長期貸付金回収収入				
	投資有価証券売却収入				
	積立資産取崩収入				
	その他の活動による収入				
	その他の活動収入計(7)	0	0	0	
	支出				
	長期運営資金借入金元金償還支出				
	長期貸付金支出				
	投資有価証券取得支出				
	積立資産支出				
災害損失支出					
その他の活動による支出	50,000	112,000	△ 62,000		
その他の活動支出計(8)	50,000	112,000	△ 62,000		
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 50,000	△ 112,000	62,000		
予備費支出(10)	0		0		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	2,939,000	13,097,268	△ 10,158,268		
前期末支払資金残高(12)	58,593,931	58,593,931	0		
当期末支払資金残高(11)+(12)	61,532,931	71,691,199	△ 10,158,268		

法人単位事業活動計算書

(自) 平成29年 4月 1日 (至) 平成30年 3月31日

社会福祉法人 なごみの郷

(単位: 円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)	
サービス活動増減の部	収益	就労支援事業収益	12,913,154	13,066,289	△ 153,135
		障害福祉サービス等事業収益	137,860,563	123,240,906	14,619,657
		その他の事業収益			
		経常経費寄附金収益	332,110	210,000	122,110
		その他の収益			
		サービス活動収益計(1)	151,105,827	136,517,195	14,588,632
	費用	人件費	97,468,425	93,383,901	4,084,524
		事業費	9,643,763	10,266,036	△ 622,273
		事務費	15,177,546	14,337,122	840,424
		就労支援事業費用	13,040,605	11,762,320	1,278,285
		減価償却費	13,555,974	14,193,047	△ 637,073
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 6,512,169	△ 6,689,495	177,326
		利用者負担軽減額			
	その他の費用				
	サービス活動費用計(2)	142,374,144	137,252,931	5,121,213	
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	8,731,683	△ 735,736	9,467,419	
サービス活動外増減の部	収益	借入金利息補助金収益			
		受取利息配当金収益	688	4,524	△ 3,836
		有価証券評価益			
		有価証券売却益			
		その他のサービス活動外収益	552,985	569,022	△ 16,037
		サービス活動外収益計(4)	553,673	573,546	△ 19,873
	費用	支払利息	104,142	127,257	△ 23,115
		有価証券評価損			
		有価証券売却損			
		その他のサービス活動外費用			
		サービス活動外費用計(5)	104,142	127,257	△ 23,115
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	449,531	446,289	3,242	
	経常増減差額(7)=(3)+(6)	9,181,214	△ 289,447	△ 9,470,661	
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益			
		施設整備等寄附金収益			
		長期運営資金借入金元金償還寄附金収益			
		固定資産受贈額			
		固定資産売却益			
		その他の特別収益			
		特別収益計(8)	0	0	0
	費用	基本金組入額			
		資産評価損			
		固定資産売却損・処分損	2	2,267	△ 2,265
固定資産除却・廃棄費用					
国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)					
国庫補助金等特別積立金積立額					
災害損失					
その他の特別損失					
	特別費用計(9)	2	2,267	△ 2,265	
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	△ 2	△ 2,267	2,265	
	当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	9,181,212	△ 291,714	9,772,926	
繰越額の動部増減		前期繰越活動増減差額(12)	94,695,660	94,987,374	△ 291,714
		当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	103,876,872	94,695,660	9,181,212
		基本金取崩額(14)	0	0	0
		その他の積立金取崩額(15)	0	0	0
		その他の積立金積立額(16)	0	0	0
		次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	103,876,872	94,695,660	9,181,212

法人単位貸借対照表
平成30年 3月31日現在

社会福祉法人 なごみの郷

(単位: 円)

資 産 の 部				負 債 の 部			
勘 定 科 目	当 年 度 末	前 年 度 末	増 減	勘 定 科 目	当 年 度 末	前 年 度 末	増 減
流動資産	76,648,871	62,888,266	13,760,605	流動負債	9,424,865	5,947,299	3,477,566
現金預金	53,461,455	36,284,584	17,176,871	短期運営資金借入金			
現金	167,234	168,347	△ 1,113	事業未払金	3,411,092	3,247,434	163,658
預金	53,294,221	36,116,237	17,177,984	その他の未払金			
有価証券				支払手形			
事業未収金	20,654,300	23,188,352	△ 2,534,052	役員等短期借入金			
未収金				1年以内返済予定設備資金借入金	2,400,000	2,400,000	0
未収補助金	1,128,503	1,814,095	△ 685,592	1年以内返済予定長期運営資金借入金			
未収収益				1年以内返済予定リース債務			
受取手形				1年以内返済予定役員等長期借入金			
貯蔵品				1年以内支払予定長期未払金			
医薬品				1年以内支払予定長期預り金			
診療・療養費等材料				未払費用			
給食用材料				預り金	65,370	137,665	△ 72,295
商品・製品	99,950	51,500	48,450	職員預り金	848,403	162,200	686,203
仕掛品	36,642	47,262	△ 10,620	前受金			
原材料	496,215	648,274	△ 152,059	前受収益			
立替金		2,983	△ 2,983	仮受金			
前払金				賞与引当金	2,700,000		2,700,000
前払費用	771,806	851,216	△ 79,410	その他の流動負債			
1年以内回収予定長期貸付金				固定負債	4,628,000	7,038,000	△ 2,410,000
1年以内精算予定長期前払費用				設備資金借入金	3,950,000	6,350,000	△ 2,400,000
短期貸付金				長期運営資金借入金			
仮払金				リース債務			
繰延税金資産				役員等長期借入金			
その他の流動資産				退職給付引当金			
徴収不能引当金				長期未払金			
固定資産	84,180,488	94,204,484	△ 10,023,996	長期預り金	678,000	688,000	△ 10,000
基本財産	52,607,278	61,290,399	△ 8,683,121	その他の固定負債			
土地				負債の部合計	14,052,865	12,985,299	1,067,566
建物	228,918,279	228,572,679	345,600	純資産の部			
減価償却累計額	△ 177,311,001	△ 168,282,280	△ 9,028,721	基本金	11,546,875	11,546,875	0
定期預金	1,000,000	1,000,000	0	0 国庫補助金等特別積立金	31,252,747	37,764,916	△ 6,512,169
投資有価証券				その他の積立金	100,000	100,000	0
その他の固定資産	31,573,210	32,914,085	△ 1,340,875	修繕積立金	100,000	100,000	0
土地	8,798,375	8,798,375	0				
建物	36,089,560	35,660,800	428,760	次期繰越活動増減差額	103,876,872	94,695,660	9,181,212
構築物	3,237,500	3,237,500	0	(うち当期活動増減差額)	9,181,212	△ 291,714	9,472,926
機械及び装置	5,337,070	4,715,550	621,520				
車輛運搬具	14,988,275	15,361,651	△ 373,376				
器具及び備品	15,647,414	15,312,614	334,800				
建設仮勘定							
有形リース資産							
減価償却累計額	△ 52,789,484	△ 50,436,905	△ 2,352,579				
権利	164,500	164,500	0				
ソフトウェア							
無形リース資産							
投資有価証券							
長期貸付金							
退職給付引当資産							
長期預り金積立資産							
積立資産	100,000	100,000	0				
修繕積立資産	100,000	100,000	0				
差入保証金							
長期前払費用							
繰延税金資産							
その他の固定資産							
資産の部合計	160,829,359	157,092,750	3,736,609	純資産の部合計	146,776,494	144,107,451	2,669,043
				負債及び純資産の部合計	160,829,359	157,092,750	3,736,609

IVその他

1. 研修・各種団体会議への出席

月	日	研修・会議名	主催	出席数
4	27	農福連携及び地域連携研修	県健康福祉部障害保健福祉課	2
5	12～	平成 29 年度 対人援助講習 (9/7 まで全 6 回)	石川県社会福祉協議会	1
6	27・28	福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程	石川県社会福祉協議会	1
7	5	食品衛生責任者研修会	小松能美食品衛生協会事務局	2
	11・12	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程	石川県社会福祉協議会	1
	14・15	第 23 回 SST 全国経験交流ワークショップ IN 金沢	一般社団法人 SST 普及協会 SST 普及協会北陸支部	3
	24～ 11/17	H29 度発達障害者等相談支援従事者育成研修 (11/7 まで全 3 回)	石川県発達障害支援センター	1
	24～ 11/17	H29 度発達障害者等相談支援従事者育成研修 (全 3 回)	石川県発達障害支援センター	1
	26 ～ 8/24	H29 年度石川県障害者相談支援従事者研修 (現任者研修)	石川県社会福祉協議会	3
8	30・31	平成 29 年度障害施設中堅職員研修	石川県社会福祉協議会	1
9	7	平成 29 年度安全運転管理者等法廷講習会	県安全運転管理者協議会連合会	1
	19～21	平成 29 年度「就業支援基礎研修」	石川障害者職業センター	1
	26・27	平成 29 年度社会福祉法人経営講座Ⅳ 財務管理研修(初任者)	石川県社会福祉協議会	1
	26・27	平成 29 年度相談支援従事者初任者研修	石川県社会福祉協議会	1
10	18～ 11/14	平成 29 年度相談支援従事者初任者研修	石川県社会福祉協議会	1
	24	食品衛生責任者要請講習会	小松能美食品衛生協会事務局	1
	26	社会福祉法人経営講座Ⅳ財務管理研修(経営者等)	県社会福祉法人経営者協議会	1
11	8～12/6	平成 29 年度サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修(自立訓練：生活訓練)全 3 回	石川県社会福祉協議会	1
	8～12/6	平成 29 年度サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修(地域生活) 全 3 回	石川県社会福祉協議会	1
	8～12/8	平成 29 年度サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修(就労) 全 3 回	石川県社会福祉協議会	1
	15	平成 29 年度石川県障害者虐待防止・権利擁護研修	県健康福祉部障害保健福祉課	1
	16～17	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程初任者研修	石川県社会福祉協議会	1
3	14	平成 29 年度 就労支援基礎研修	石川県社会福祉協議会	1
	14	平成 29 年度 就労支援基礎研修	石川県社会福祉協議会	1
	20	「精神障がいのある人の就労支援のために」	南加賀就労支援強化連絡会	1

2. 関連団体への参加

平成 30 年 4 月 1 日現在

氏名	関係団体	職名
荒田理事長	能美市自立支援協議会 認定 NPO 法人えんがわ	委員 理事
小川支援部長	小松市障害者自立支援協議会 ・全体会議 小松市虐待防止協議会いのちと心の部会 自殺防止対策研修会及び地域連絡会 能美市手話言語・障がい者等コミュニケーション 促進検討委員会 石川県精神障害者事業所連絡会 夢や運営委員会	代理 委員 委員 委員 委員
高田支援部長	小松市社会福祉協議会 能美市障害者自立支援協議会事業所連絡会	評議員 委員
瀬戸支援部次長	小松市障害者自立支援協議会 精神障がい者等地域生活支援研究会	委員
富樫 尚子	小松市障害者自立支援協議会 テーマ別検討会	委員
中村 有紀	南加賀就労支援強化連絡会 ネットワーク推進委員会	委員
金谷 葉月	南加賀就労支援強化連絡会 クローバー制作委員会	委員
北島 千裕	小松市障害者自立支援協議会 テーマ別検討会	委員
堂前 美春	小松市障害者自立支援協議会 ・運営委員会 ・テーマ別検討会 ・相談支援事業所連絡会 小松くらし安心ネットワーク協議会 障がい者対策部会	委員 委員長 委員
宇野 結貴	小松市障害者自立支援協議会 ・テーマ別検討会 ・相談支援事業所連絡会	委員 委員
前出 真	南加賀就労支援強化連絡会 ネットワーク推進委員会	委員
吉田 早希	南加賀就労支援強化連絡会 クローバー制作委員会	委員
田島 崇行 海老原 綾	能美市障害者自立支援協議会 ・運営委員会 ・定例支援会議 ・相談支援事業所連絡会 ・事業所連絡会	委員 委員 委員 委員

3. 平成 29 年度こまつ看護学校実習概要

社会福祉法人なごみの郷は、毎年こまつ看護学校の精神看護学実習の受け入れを行っています。精神看護学実習は、「精神に障害のある人の特徴を理解し、生活者としてよりよく生きるための看護を理解する」ことをねらいとし、「地域で生活している精神に障害のある人の看護を理解する。」ことをなごみの郷での実習目標として、就労支援センターつばさ、能美地域活動センターはまかぜ、地域活動センターくろゆりの通所事業所で実習を行いました。学生は、メンバーとして活動に参加し、メンバーの姿・思いを知る。地域住民として生活するということを、住む・働く・生活を組み立てるという視点から考え、2日間実習を行い、地域で生活する精神に障害のある方への理解を深めて行きました。H29年度は、実習生 35 名の学生を受け入れました。

4. 地域貢献の一環

今年 4 月の法律の改正により社会福祉法人の経営原則に「地域社会に貢献する取り組み」として無料又は低額な料金による福祉サービスの提供の実施が明記されました。

今回はその「地域貢献」の一環として、5 月 21 日に苗代蓮代寺地区のご要望があった高齢者世帯の方々へ手作りなごみ弁当（昼食サービス）96 食の無料配達を地区民生委員の皆様のご協力をいただき実施することができました。

今後もどのような形で地域の皆様の要望にお応えできるか、6 月の定時評議員会で承認された組織の執行体制を強化した新役員の下、「なごみの郷」は社会福祉法人として将来を見据えた福祉サービス事業の充実は勿論の事、地域福祉に還元できる高い公益性をめざして取り組んでいきます



各事業所行事写真集！

☆ つばさ編



初詣。願いを込めて、ぱんぱん！



たこ焼きパーティ！作るのに一生懸命！

☆ くろゆい編

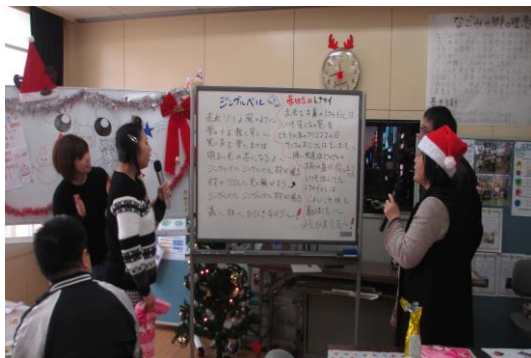


“ハスネテラス”へ行きました。快晴で気分上々



こんな作品に仕上がりました！

☆ はまかぜ編



飾り付けもカワイイね シングルベ〜ル♪”



歌ならハリキれる みんな聞いてます？

6. 平成 29 年度なごみの郷苦情解決第三者委員活動報告

月	訪問先	訪問内容	相談形式と人数		苦情 BOX 電話 等	計人数
4	はまかぜ	通常訪問	グループ相談	7		7
5	なごみ	通常訪問	個別相談	8		8
6	くろゆり	通常訪問	グループ相談	5	2 苦情	7
7	はまかぜ	通常訪問	グループ相談	8		8
8	なごみ	通常訪問	個別相談等	8	1 手紙 1 苦情 1 電話	11
9	くろゆり	通常訪問	グループ相談	5	2 苦情	7
10	はまかぜ	通常訪問	グループ相談 個別相談	9	1 苦情	10
11	なごみ	通常訪問	個別相談	3		3
12	くろゆり	通常訪問	グループ相談	5	1 苦情	6
1	はまかぜ	通常訪問	グループ相談	9	1 電話 メール	10
2	なごみ	通常訪問	個別相談	4	1 苦情	5
3	くろゆり	通常訪問	グループ相談	4		4
相談人数総計 86 人（内苦情 8、電話 2、手紙 1）						

■今年度の活動と次年度の展望

- ・今年度で、12 年目の活動であった。
- ・苦情解決第三者委員である田中良弘、北岡和代の 2 名で活動を行った。
- ・はまかぜ、なごみ、くろゆりへの定期訪問活動（各施設を 3 か月毎）を行った。
- ・はまかぜとくろゆりは、訪問がプログラムに組み込まれているため、来所メンバーのほぼ全員が集まるグループ相談を行い、必要に応じて個別相談を行った。
- ・重大な苦情相談はなかったが、賃金に関する深刻な相談があり、施設側に即説明を求め、その結果を本人に説明し、誤解を解いた。
- ・次年度も、施設側の委嘱に応じて、同じ第三者委員が同様の活動を実践し、施設が提供するサービスの充実に貢献していくつもりである。

（文責：苦情解決第三者委員 北岡）

なごみの郷
平成29年度事業実績及び
平成30年度に向けて

発行 社会福祉法人なごみの郷
理事長 荒田 稔

発行日 平成30年8月 1日

編集 社会福祉法人なごみの郷
〒923-0851
石川県小松市北浅井町123番地
TEL(0761)23-7232
FAX(0761)23-7284

印刷 能美地域活動センター
はまかぜ 印刷部門
